

# 岡遺跡(第1・2次)発掘調査報告

～三重県津市白山町二本木～

2024（令和6）年3月

三重県埋蔵文化財センター







## 例言

- 1 本書は三重県津市白山町二本木に所在する岡遺跡（第1・2次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は、県道二本木御衣田線道路改良事業に伴い実施した。
- 3 発掘調査の費用は三重県土整備部が全額負担した。
- 4 調査の体制等は以下の通りである。  
調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課  
なお、調査における詳細については、「I 前言」に記載したとおりである。
- 5 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が行い、本書の執筆は以下のとおりで、文末にも記載した。刊行にあたり一部補筆している。  
I：土橋明梨紗・萩原義彦・原田恵理子 II・III：土橋明梨紗 IV：株式会社バリノ・サーヴェイ  
V：土橋明梨紗 遺物写真撮影：土橋明梨紗・田中久生・中村法道
- 6 発掘調査にあたっては、地元の方々をはじめ、津市教育委員会、津市大三自治協議会からご教示・ご協力を頂いた。
- 7 当発掘調査の記録および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡例

### [地図類]

- 1 本書で使用した地図は、国土地理院発行「佐田」「津西部」「二本木」「大仰」(1/25,000) および三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路線1000))を使用し、調製したものである。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している。(承認番号:令和5年4月6日付 三総合地1号)
- 2 当地は平面座標系IV系に属しており、本書での図の方位は座標北を使用している。なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
- 3 土層および遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖(30版)』(1967年初版)による。
- 4 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。  
SA：柱列 SD：溝 SE：井戸 SF：焼成痕跡 SK：土坑 P：ピット・柱穴
- 5 本書では、以下のように遺物の表記漢字について統一している。  
碗・碗・鉢 → 碗 坏 → 杯
- 6 遺構一覧表における遺構番号は第2次調査のみ先頭を2から始め、次に調査区の1~5を、各調査区において001から付している。
- 7 地区名については、第1次調査を含めた地区割である。
- 8 遺物観察表は、各遺物実測図の番号に対応する。これは、器種・材質如何を問わず番号である。ただし、これは掲載した実測個体のみであり、実測図を作成できない破片には、番号を振っていない。従って、この番号の遺物が全てではない。
- 9 実測番号は、実測をおこなった際の番号である。出だしの3桁は用紙番号で、後ろ側の2桁は用紙内での実測した順序の番号である。
- 10 計測値について記載した口径・器高・その他は、それぞれ最大値ないし接地面をとっている。また、「一」は、計測不能を示している。遺物観察表内で、遺物によっては長さ・短さ・厚さ・高台径・底径を表す場合がある。
- 11 調整・技法については、遺物製作時になされていることを記載し、順序を示すものではない。
- 12 素地および胎土については、粗密を表記する。
- 13 残存度合については、その部位の12分割した際の残存度を示した。

### [写真図版]

- 1 写真図版は、出土遺構・出土遺物ごとにまとめている。
- 2 出土遺物実測図の報告番号と遺物写真番号は対応している。
- 3 遺物の写真図版の個々の縮尺は、不同である。

## 本文目次

I	前言	1
1	調査に至る経緯と経過	1
2	調査の方法	2
II	位置と環境	4
1	位置	4
2	歴史的環境	4
III	調査の成果	7
1	調査概要・基本層序	7
2	遺構	7
3	遺物	20
IV	自然科学分析	45
1	岡遺跡の放射性炭素年代測定	45
V	まとめ	49
1	遺構	49
2	遺物	49
3	結語	49

## 挿図目次

第1図	調査区位置図及び地区設定図	3	SE24001平面図・断面図	17	
第2図	遺跡位置図	5	第13図	第2次調査5区平面図、土層断面図	18
第3図	第1次調査平面図、下層確認TR1平面図 ・土層断面図	8	第14図	範囲確認調査出土遺物実測図	21
第4図	第1次調査土層断面図、 SK10003～10005実測図	9	第15図	第1次調査出土遺物実測図1	21
第5図	第2次調査1区平面図	10	第16図	第1次調査出土遺物実測図2	21
第6図	第2次調査1区土層断面図、 トレンチ土層断面図	11	第17図	第1次調査出土遺物実測図3	22
第7図	第2次調査2区平面図	12	第18図	第1次調査出土遺物実測図4	23
第8図	第2次調査2区土層断面図、 トレンチ土層断面図	13	第19図	第1次調査出土遺物実測図5	24
第9図	第2次調査3区平面図	14	第20図	第1次調査出土遺物実測図6	25
第10図	第2次調査3区土層断面図、 トレンチ土層断面図	15	第21図	第1次調査出土遺物実測図7	26
第11図	第2次調査3区 SA23004平面図・断面図	16	第22図	第1次調査出土遺物実測図8	27
第12図	第2次調査4区平面図、土層断面図、		第23図	第1次調査出土遺物実測図9	28
			第24図	第1次調査出土遺物実測図10	29
			第25図	第1次調査出土遺物実測図11	30
			第26図	第1次調査出土遺物実測図12	31
			第27図	第2次調査出土遺物実測図	32
			第28図	暦年校正結果	47
			第29図	分析試料	48

## 表目次

第1表	遺構一覧表	19	第9表	出土遺物観察表8	40
第2表	出土遺物観察表1	33	第10表	出土遺物観察表9	41
第3表	出土遺物観察表2	34	第11表	出土遺物観察表10	42
第4表	出土遺物観察表3	35	第12表	出土遺物観察表11	43
第5表	出土遺物観察表4	36	第13表	出土遺物観察表12	44
第6表	出土遺物観察表5	37	第14表	分析試料一覧結果	45
第7表	出土遺物観察表6	38	第15表	放射性炭素年代測定結果	46
第8表	出土遺物観察表7	39			

## 写真図版目次

写真図版1	第1次調査調査前状況、 第1次調査調査前状況 …… 51	写真図版11	第2次調査5区調査区全景、 第2次調査1区SA21006 …… 61
写真図版2	第1次調査調査区全景、 第1次調査調査区全景 …… 52	写真図版12	第2次調査3区SD23001調査状況、 第2次調査3区調査区南掘削状況、 第2次調査3区SD23001遺物出土状 況 …… 62
写真図版3	第1次調査下層確認状況、 第1次調査下層確認状況 …… 53	写真図版13	第2次調査4区SE24001、 第2次調査5区SK25001 …… 63
写真図版4	第1次調査SK10001、 第1次調査SF10002 …… 54	写真図版14	出土遺物1 …… 64
写真図版5	第1次調査SK10003、 第1次調査SK10004検出状況 …… 55	写真図版15	出土遺物2 …… 65
写真図版6	第1次調査SK10004調査状況、 第1次調査SK10005検出状況 …… 56	写真図版16	出土遺物3 …… 66
写真図版7	第1次調査SK10005完掘状況、 第2次調査1区調査前状況 …… 57	写真図版17	出土遺物4 …… 67
写真図版8	第2次調査2区調査前状況、 第2次調査3区調査前状況 …… 58	写真図版18	出土遺物5 …… 68
写真図版9	第2次調査1区調査区全景、 第2次調査2区調査区全景 …… 59	写真図版19	出土遺物6 …… 69
写真図版10	第2次調査3区調査区全景、 第2次調査4区調査区全景、 第2次調査4区調査区全景 …… 60	写真図版20	出土遺物7 …… 70
		写真図版21	出土遺物8 …… 71
		写真図版22	出土遺物9 …… 72
		写真図版23	出土遺物10 …… 73
		写真図版24	出土遺物11 …… 74
		写真図版25	出土遺物12 …… 75



# I 前 言

## 1 調査に至る経緯と経過

### (1) 調査に至る経緯

三重県埋蔵文化財センターは、毎年国及び県に開する各種公共事業について、事業予定地内の埋蔵文化財の確認を行い、その保護に努めている。こうした中で、三重県土整備部道路建設課から一般県道二本木御衣田線の事業計画の照会を受けた。その計画は、国道165号と久居美杉線を結び、津・久居中心部と松阪中心部を移動するために重要な役割を担うものである。三重県中勢地域を南北に縦貫する広域農道（グリーンロード）の延長線上にあたり、大村川に沿って川の西側を南下し、遺跡の南方で東へ曲がり、川を横断して一般県道藤大三停車場線に繋がる延長1.44kmの区間である。照会の結果、予定地内に岡遺跡が所在することが判明した。そのため、令和元年度に範囲確認調査を実施した。その結果、岡遺跡の2,330㎡について発掘調査を実施することとなった。（土橋・原田）

### (2) 調査の経過

#### a 調査経過の概要

岡遺跡全体の面積は約660,000㎡である。計画路線内は田地で、本調査の必要の有無確認のための範囲確認調査は令和元年度に31カ所の調査坑を設けて実施した。その結果、縄文土器や中世の山茶碗が出土したほか、土坑、溝などの遺構を確認した。事業担当課との協議の結果、調査対象地の南側から、令和2年度（岡遺跡第1次調査）に815㎡、令和3年度（岡遺跡第2次調査）に1,515㎡、合計2,330㎡の本発掘調査を実施することとなった。以下に、その概要を記述する。

#### 令和2年度（第1次調査）

調査坑2カ所に相当する範囲を調査区として、計画路線内の最南部分815㎡の発掘調査を行った。その結果、縄文土器、石器が出土したほか、土坑、焼土坑などの遺構を確認した。そのほか、風倒木痕跡、谷状の浅い落ち込み地形を確認した。

#### 令和3年度（第2次調査）

調査坑13カ所に相当する範囲を調査区として、

計画路線内に計5カ所の調査区（1～5区）を設定した。その結果、山茶碗、瓦器碗、土師器、鉄滓が出土したほか、素掘り井戸、土坑、柱列などの遺構を確認した。また、第1次調査と同様の谷状の浅い落ち込み地形を確認した。

#### b 調査の体制

各年度の担当・体制などは、次のとおりである。

##### 令和元年度

###### ・範囲確認調査

担当：中村法道・穂積裕昌（調査研究1課）

期間：令和2年1月14日～1月17日

面積：248㎡

##### 令和2年度

###### ・第1次調査

担当：中村法道・元座範子（調査研究1課）

委託業者：丸文工業株式会社

期間：令和2年4月24日～8月11日

面積：815㎡

##### 令和3年度

###### ・第2次調査

担当：土橋明梨紗・萩原義彦（調査研究1課）

委託業者：株式会社アート

期間：令和3年6月11日～11月26日

面積：1,515㎡

#### c 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（周知の埋蔵文化財における土木工事等の発掘に関する通知）

・令和元年7月30日付 津建第346号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長宛）

文化財保護法第99条第1項（発掘調査の着手報告）

・令和2年5月12日付 教埋第41号

（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長宛）【第1次調査】

・令和3年6月16日付 教埋第70号

（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長宛）【第2次調査】

文化財保護法第100条第2項（文化財の発見・認定

通知)

- ・令和2年8月14日付 教委第12-4414号  
(三重県教育委員会教育長から津南警察署長宛)  
【第1次調査】
- ・令和3年12月8日付 教委第12-4414号  
(三重県教育委員会教育長から津南警察署長宛)  
【第2次調査】

調査日誌抄

令和2年【第1次調査】

- 5月15日 表土の重機掘削開始
- 5月29日 重機掘削完了
- 6月1日 地区杭4m設定、ベルトコンベア設置
- 6月2日 包含層掘削開始
- 6月5日 遺構検出(SK10001、B-W15Pit1)
- 6月8日 SK10001掘削終了、B-V14Pit1検出
- 6月9日 SF10002検出、掘削
- 6月15日 SK10003検出、掘削
- 6月16日 SK10003掘削終了
- 6月17日 包含層掘削終了、調査区全景写真撮影
- 6月22日 土層断面図・平面図作成
- 7月10日 下層確認、重機掘削
- 7月15日 下層確認、土層確認精査
- 7月16日 下層確認、写真撮影、SK10004・SK10005実測図作成
- 7月20日 SK10005掘削終了
- 7月21日 SK10004掘削終了
- 7月22日 実測図作成、機材撤収、現地調査終了

令和3年【第2次調査】

- 7月6日 資材搬入
- 7月12日 2区表土、重機掘削開始
- 7月19日 2区北半に地区杭設定
- 7月26日 重機掘削(80m地点まで)、遺構検出開始、ベルトコンベア設置
- 8月2日 遺構掘削開始、実測図ポイント設定
- 8月5日 調査区、写真撮影
- 8月6日 実測図作成
- 8月23日 2区80~100m地点の重機掘削開始
- 8月24日 遺構検出
- 8月25日 1区表土、重機掘削開始
- 8月26日 2区調査区内に断削調査
- 8月27日 2区図面作成完了

- 8月30日 1区ベルトコンベア設置
- 8月31日 1区遺構検出開始、SK21001検出
- 9月6日 1区遺構掘削(SK21001、SD21002、Pit群)
- 9月7日 1区調査区内に谷状の落ち込みを確認、複数個所の断削調査開始
- 9月9日 SK21001底でPit4基検出
- 9月10日 写真撮影(全景、遺構など)、実測図作成
- 9月15日 3区表土、重機掘削開始
- 9月21日 1区実測図作成、終了
- 9月29日 3区遺構検出、Pit複数検出
- 10月5日 調査区南半で風倒木痕跡状の堆積確認
- 10月6日 調査区、全景写真撮影
- 10月11日 4・5区表土、重機掘削開始
- 10月12日 3区断削調査
- 10月13日 4区遺構検出
- 10月14日 4区SE24001、SA24002検出
- 10月15日 5区遺構検出、SK25001掘削
- 10月18日 5区調査区全景、写真撮影
- 10月19日 SD23001撮影(遺物出土状況・完掘)
- 10月20日 4区、調査区全景写真撮影、遺構掘削
- 10月21日 3区、遺構検出、Pit群検出、4区実測図作成、5区遺構掘削・実測図作成
- 10月27日 3区、調査区全景写真撮影、5区現地調査終了
- 10月28日 4区SE24001断削調査
- 11月2日 機材搬出
- 11月4日 3・4区実測図完了、現地調査終了

## d 普及公開

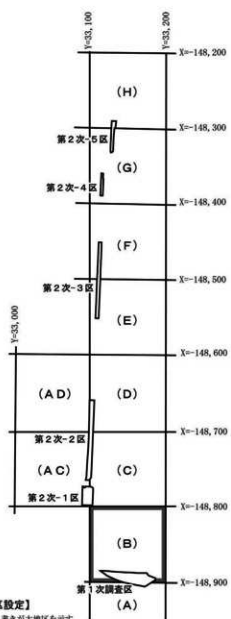
発掘調査が複数カ所に分かれており、終了した調査区から順次引き渡し、工事に入っていたため、現地説明会は実施していない。代替として、三重県埋蔵文化財センターホームページやX、YouTubeでの遺跡情報の公開を行った。(土橋・萩原)

## 2 調査の方法

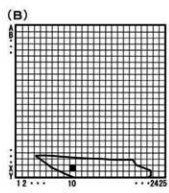
### (1) 調査区・地区の設定

第1次調査区は1カ所、第2次調査区は1~5区の5カ所に分かれている。調査を実施した順で調査区の設定をしており、第1次調査、第2次調査1~5区は、南から北へ並ぶ形となっている。

地区は、第1次・第2次を含めた調査対象地を、



【大地区設定】  
 \* ( ) 書きが大地区を示す



【小地区設定】  
 \* 100m 四方の大地区を 4m 四方で区切り、北から A・B  
 ……X・Y、西から 1・2・24・25 を付番する。アルファ  
 ベットとアラビア数字の組み合わせで表記する。  
 例) ■ : B-X10

第1図 調査区位置図(1:5,000)及び地区設定図

大地区と小地区で細分した。大地区は100m四方で南からA～Hまで付している。調査区第2次-1・2区は大地区C・Dより西側にも広がっているため、それぞれ大地区AC・ADとした。さらに、大地区の中を4m四方に細分し、南北方向に北からアルファベット(A～Y)、東西方向に西からアラビア数字(1～25)を振り、アルファベットとアラビア数字を組み合わせて小地区の設定を行っている。

#### (2) 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面上まで、重機による掘削を行った。その後、人力での遺構検出と掘削を行った。

また、第1次調査においては、地形の形成過程を確認するため、記録・図化作業後に重機による下層確認調査を実施した。

遺構番号は、第1次調査は1～付番していたもの

に10000を加えて、5桁表記としている。第2次調査も5桁表記で、左から調査次数+調査区+遺構番号(3桁)で付番している。但し、Pitについては、小地区でそれぞれ1～付番している。

#### (3) 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、遺構カードや土層断面図、遺構平面図を適宜作成した。

#### (4) 出土遺物の整理

出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。それから実測可能な遺物を選別し、人の手による実測を行った。その後、発掘調査報告書の文章や版下作成等については、各担当により行った。(原田)

## II 位置と環境

### 1 位置

岡遺跡の南に接する大村川は、三重県伊賀市と津市白山町の両市にまたがる青山高原に水源をもつ河川であり、雲出川であり、雲出川の支流の一つである。大村川は青山高原の東麓側、津市白山町側を東へ流れていき、その後、同町二本木亀ヶ広で雲出川本流に合流する。

今回の調査地である岡遺跡は、その雲出川と大村川の侵食により形成された河岸段丘の大村川左岸に立地する縄文時代から近世までの複合遺跡であり、集落遺跡である。

現在、岡遺跡周辺である白山町二本木には戦後の農地改良事業によって形成された水田が広がっている。

### 2 歴史的環境

**縄文時代** 岡遺跡(1)周辺に所在する縄文時代の遺跡は、和遅野遺跡(2)、亀ヶ広遺跡(3)、川口北方遺跡(6)などを挙げることができる。中でも和遅野遺跡や岩井戸遺跡(9)、関ノ宮遺跡(21、かつて大角遺跡と呼ばれていた地点)では、石織をはじめとする多数の石器群が採集されている<sup>9)</sup>。和遅野遺跡では早期押型土器をはじめ前期から晩期に至る各時代の土器が知られ、当地を代表する縄文遺跡だったよ

うである。

**弥生時代** 縄文時代に雲出川へ広がった集住域は、弥生時代にも継続して生活が営まれたとみられている。さらに、水田稲作が拡大するのとあわせて、雲出川本流近くに集落が拡大していく。雲出川南岸に帯状に広がる川口北方遺跡は、縄文時代から継続して人々が生活域としていた遺跡である。ここでは、水田跡こそ見つかっていないものの、石廬丁やもみ跡のついた弥生土器が出土している。このほか、南岸では、ミドダニ遺跡(14)で縄文時代から継続して集落が存在することが確認されている。また、北岸にも同様に縄文時代から継続して人々が生活していた和遅野遺跡があり、こちらも川口北方遺跡同様に石廬丁が確認されているほか前期土器も採集されている。

また、岡遺跡周辺に目を向ければ、その北側に角穴遺跡(4)と大谷広遺跡(5)がある。この2遺跡は岡遺跡北側に広がる丘陵地に展開する遺跡であり、ここでは弥生時代中期の土器が出土する。

このほか、風呂谷銅鐸出土地(10)では、現物は行方不明ながら、1825(文政8)年に土砂の採取中にⅢ-2式、6区装架薄文銅鐸が出土した<sup>10)</sup>。

**古墳時代** この頃の白山地域についても、基本的に

は雲出川沿いに人々は集住していたようである。

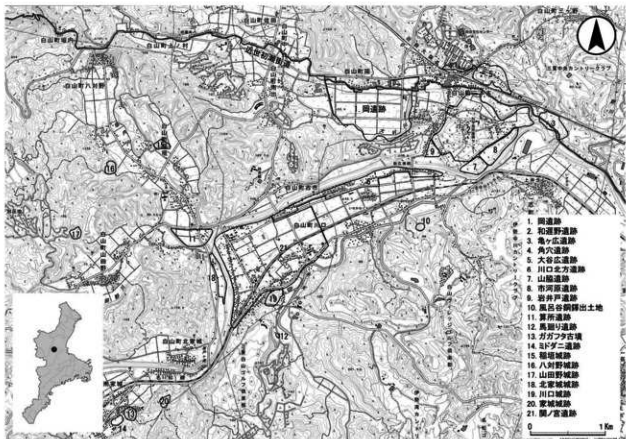
この地域でみつまっている古墳はいずれも円墳で、大村川と雲出川に挟まれた地域にある岩井戸古墳群には、須恵器のほか耳環や玉類が出土した4号墳が知られている。2河川の合流地点にある亀ヶ広古墳群では、3号墳で金環が出土している。雲出川南岸の丘陵地には馬廻り古墳群、ガガフタ古墳群(13)などがある。ガガフタ古墳群は、1号墳、2号墳の2基で構成され、ともに右片袖の横穴石室をもつ。1号墳では、須恵器・鉄鏃・金環・管玉・勾玉が、2号墳では、須恵器・刀剣・刀子・鉄鏃・鉋・鉄斧、金環等が出土した<sup>19)</sup>。

このように、耳環や金環といった金や銀を使用した装身具、鉄製品、さらに西アジアを経由して入手するようなガラス玉などは、この地域が当時の畿内政権の影響下あるいは範囲下であったことを示すものといえよう。

**奈良・平安時代** 古代律令政権下において、この地域は宕野(多木野)郷の一部、あるいはその大部分にあたると考えられている。

古代の白山地域は大和と伊勢を結ぶ重要な地点となっていたようである。都から大和・山辺を抜け、伊賀・名張を通って阿保を通るルートや、青山峠を越えて大角へ出るルート、奥鹿野を出て大原・小杉から山田野へ出るルートなどがあり、いずれも雲出川沿いに東下していくルートである。そして、大和と伊勢を結ぶ複数のルートは全て雲出川の「川口」の地に集約され、この地が交通の要衝であったことがわかっている。

また、『続日本紀』に「川口関」が設けられたことが記録に残っているほか、現在川口周辺の字名には「関の宮」があるため、この地を「川口関」と比定している。「関の宮」周辺はさらに、「川口頓宮」の比定地になっており、これは740(天平11)年11月2日から12日の11日間、聖武天皇が「川口頓宮」に滞在したという『続日本紀』によるものである。この滞在は筑紫にて藤原広嗣が反乱を起こした(藤原広嗣の乱)ことを受けたものとされている。なお、この地での滞在中に乱が平定されたため「和遅野」で遊猟を行ったと記述されており、和遅野遺跡周辺



第2図 遺跡位置図(1:50,000) [国土地理院地図「二本木」大仰 1:25,000より]

がこの遊猟地として比定されている<sup>16)</sup>。

古代からの交通の要衝として重要な地点であった当地域には仏教も早くから流入しており、川口北方遺跡周辺では、白鳳期の重圓文軒丸瓦がみつかつているほか、一志郡まで範囲を広げれば、白鳳期の寺院が複数建立されていたようである。

このように古墳時代終末期から奈良時代にかけて、交通の要衝として栄えていた当地域だが、平安時代に都が大和から山城へ遷ると変化が生じることとなった。都の場所が変わったことにより、都と神宮の間の交通路が変化したため、川口間の重要度が低下していったのである。886(仁和2)年には鈴鹿越のルートである阿須波道が開通し、都と神宮を結ぶ公式な道路となった。しかしながら、川口間を通るルートが直ちに廃されたのではなかったようで、このルートは天皇の譲位や崩御に際して、斎王が解任されて帰京するために使用するルートとして存続していた。この「川口間」がいつごろ廃絶したのかについては、関所の痕跡が調査によって明らかになっていないため、判然としないが、少なくとも南北朝の終わりごろには完全に廃絶したようである。

**中世から近世** 平安時代後半以降、この地域は荘園制度に取り込まれていった。大江氏、常陸氏といった有力豪族や、熊野三山、万寿禪寺などの社寺の私領として数個の荘園に分かれていた。

室町時代には北畠氏の支配下となり、家城城跡(20)、川口城跡(19)、山田野城跡(17)、八対野城跡(16)、稲垣城跡(15)などの家臣団の居城が作られて

いった。天正期に北畠氏が織田氏によって滅ぼされた後は、当地は織田信包、蒲生氏郷、富田信高などの所領となった。

近世期になると白山地域は藤堂家の所領となった。今回、調査を実施した第2次4区・5区の間を通る初瀬街道は少なくとも中世以降に整備された大和地域と神宮を結ぶ街道であり、この頃に最も栄えたとされる。現在でも初瀬街道沿いには当時の面影を残している箇所が随所にあり、岡遺跡に最も近い宿場であった二本木にはかつての宿場の建物などが残っている。

以上のように、調査地をはじめとする雲出川流域は、縄文時代に人々が集住し始めたことを契機として現在に至るまで人々の生活が絶え間なく営まれた地である。(土橋)

## 註

- (1) 白山町郷土史編集発行委員会『三重一志 白山町文化誌』1973年に記述されている。
- (2) 新田剛「編譯」『三重県史 資料編 考古1』三重県 2005年に記述されている。
- (3) 小玉道明・新田洋・清水正明「三重県一志郡白山町 ガガフタ古墳群発掘調査報告」『研究紀要 第5号』三重県埋蔵文化財センター 1996年に記述されている。
- (4) 註(1)と同じ。

## 参考文献

- 白山町郷土史編集発行委員会『三重一志 白山町文化誌』1973年  
白山町教育委員会『和遅野遺跡発掘調査報告』1975年  
白山町教育委員会『大角遺跡発掘調査報告』1983年  
三重県埋蔵文化財センター『研究紀要 第5号』1996年  
白山町教育委員会『川口北方遺跡発掘調査報告書』2001年  
三重県『三重県史 資料編 考古1』2005年

## Ⅲ 調査の成果

### 1 調査概要・基本層序

岡遺跡は三重県津市白山町二本木に位置し、大村川が形成する段丘に広がる縄文時代から中世の集落遺跡である。

調査は既設道路の拡幅および延伸部分を対象としたもので、令和元年度に範囲確認調査を実施した。その結果に基づいて令和2・3年度に本発掘調査にあたる第1・2次調査を実施した。調査期間は、範囲確認調査が令和2年1月、第1次調査は令和2年7月から9月、第2次調査は令和3年6月から11月である。本格発掘調査は範囲確認調査で遺構等を確認した箇所を対象としたため、第2次調査区は5カ所に分かれている。発掘調査面積は、約2,330㎡である。

調査区の基本層序は、調査区が6カ所に分かれているため場所によってやや異なる。上から表土（盛土あるいは耕作土・厚さ約0.4～0.8m）、旧耕作土あるいは床土（厚さ約0.1～0.2m）、黒褐色・暗褐色砂質シルト、褐灰色粘性土（古代から中世の遺物包含層・厚さ0.1～0.2m）、明黄褐色シルト・黄色粘土・オリーブ褐色細砂などの遺構検出面であった。なお、遺構を検出しなかった箇所での遺構検出面をさらに掘り下げたところ、明褐色砂礫や川原石を含む暗オリーブ色細砂（自然堆積層）が存在することを確認した。この自然堆積層は大村川が運搬した砂礫と考えられる。

遺構検出面は、調査地が大村川沿いから段丘上に広がっている。その標高は45.5～50.8mとやや幅がある。なお、北に行くにつれてその面が上がっていく状況が認められる。

第1次調査では、縄文時代中期から後期に属すると思われる土坑や焼土痕跡のほか、包含層からも多数の縄文土器片と石器が出土した。第2次調査においても同様の結果を想定していたが、縄文土器や石器はほぼ出土せず、平安時代から近世にかけての土器や陶磁器類が出土したほか、井戸や柱列、溝を検出した。このほか、両調査において旧地形とみられる浅い谷状の部分での堆積層を確認した。

### 2 遺構

#### (1) 第1次調査(第3～4図)

第1次調査では土坑4基と、焼土痕跡1基を検出している。土坑からはいずれも小片ながら、縄文時代中期から後期ごろの縄文土器が出土している。また、調査区中央に広がる浅い谷状の落ち込みは、縄文時代ごろに旧地形と判断し、遺構には含めずに報告をする。

**SK10001** 0.57m×0.57mの土坑で、残存深0.34mである。楕円に近い形状といえよう。破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土した。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

**SF10002** 0.20m×0.31mの楕円状の土坑で、残存深0.07mである。埋土が赤変していたため、焼土痕跡と判断した。出土遺物はないものの、周囲の遺構の状況からみて縄文時代中期から後期に属する遺構と判断した。

**SK10003** 1.79m×1.15mの楕円状の土坑で、残存深0.34mである。破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

**SK10004** 0.77m×0.53mの楕円状の土坑で、残存深0.29mである。いずれも破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

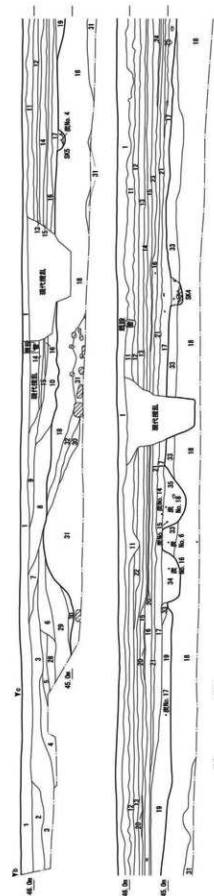
**SK10005** 0.59m×0.95mの楕円状の土坑で、残存深0.18mである。いずれも小片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

#### (2) 第2次調査(第5～14図)

第2次調査では、土坑8基、溝2条、井戸1基、柱列3基、このほか3区で多数のビッドを検出した。土坑には、弥生土器を小片含むもの、古墳時代の土器を含むものなどがあるものの、多くは中世以降のものである。また、溝、井戸については中世と考えられる。柱列については、遺物の出土がないため軽率に判断するのは避けるべきではあるが、周辺の遺構の状況からいずれも中世に属するものといえ

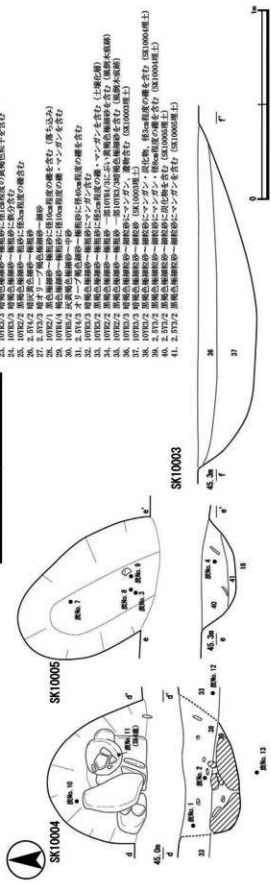




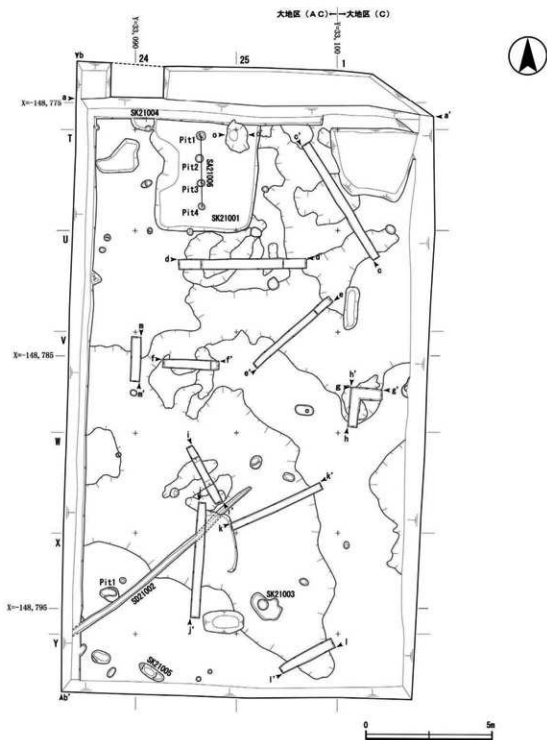


11. 10781/4 褐色細砂～粗砂中に径5mm程度の礫を含む(10782/3褐色細砂堆積状況に同じ)
12. 2314/1 灰白色細砂～粗砂
13. 10781/2 灰白色細砂～粗砂中に径5mm程度の黄褐色粘土を含む
14. 10781/3 灰白色細砂～粗砂中に径5mm程度の黄褐色粘土を含む(水田耕作土)
15. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径10mm程度の黄褐色粘土を含む(水田耕作土)
16. 10782/4 灰白色細砂～粗砂中に径10mm程度の礫・砂を含む(水田耕作土)
17. 10781/3 細かい黄褐色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫・マンガンを含む
18. 10782/3 黄褐色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫・マンガンを含む(畑田圃)
19. 10782/3 黄褐色細砂～粗砂
20. 10781/6 褐色細砂～粗砂(赤土)
21. 10782/2 黄褐色細砂～粗砂中に径5mm程度の礫・砂を含む(水田耕作土)
22. 10781/4 灰白色細砂～粗砂中に径5mm程度の黄褐色粘土を含む
23. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径5mm程度の黄褐色粘土を含む
24. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径5mm程度の礫を含む
25. 10782/2 灰白色細砂～粗砂
26. 2314/2 灰白色細砂～粗砂
27. 10781/4 褐色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫・マンガンを含む
28. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫・マンガンを含む
29. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫・マンガンを含む
30. 10782/2 灰白色細砂～粗砂
31. 2314/3 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫を含む(土壌化礫)
32. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫・マンガンを含む(土壌化礫)
33. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫・マンガンを含む(土壌化礫)
34. 10782/2 灰白色細砂～粗砂 一部10781/4に同じ、黄褐色細砂を含む(畑田圃)
35. 10782/2 灰白色細砂～粗砂 一部10781/4に同じ、黄褐色細砂を含む(畑田圃)
36. 10782/2 灰白色細砂～粗砂 一部10781/4に同じ、黄褐色細砂を含む(畑田圃)
37. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫・マンガンを含む(SK10000堆土)
38. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(SK10000堆土)
39. 2314/2 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(SK10000堆土)
40. 2314/2 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(SK10000堆土)
41. 2314/2 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(SK10000堆土)

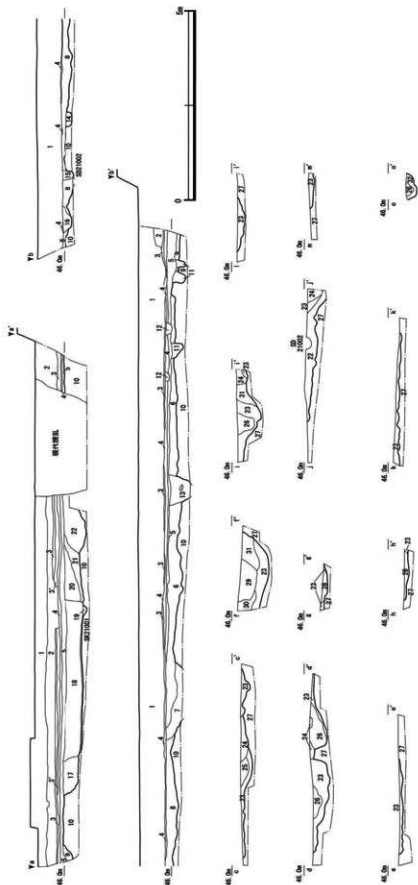
1. 赤土
2. 10781/3 細かい黄褐色細砂～粗砂中に径5mm程度の礫を含む(赤土)
3. 10781/4 細かい黄褐色細砂～粗砂
4. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫を含む
5. 10782/4 灰白色細砂～粗砂中に径100mm程度の礫を含む
6. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径1200μm程度の礫を含む
7. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径1200μm程度の礫を含む
8. 10782/2 灰白色細砂～粗砂中に径1200μm程度の礫を含む(落ち込み)
9. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(落ち込み)
10. 10782/3 灰白色細砂～粗砂中に径500μm程度の礫を含む(落ち込み)



第4図 第1次調査土層断面図(1:100)、SK10003と10005実測図(1:20)



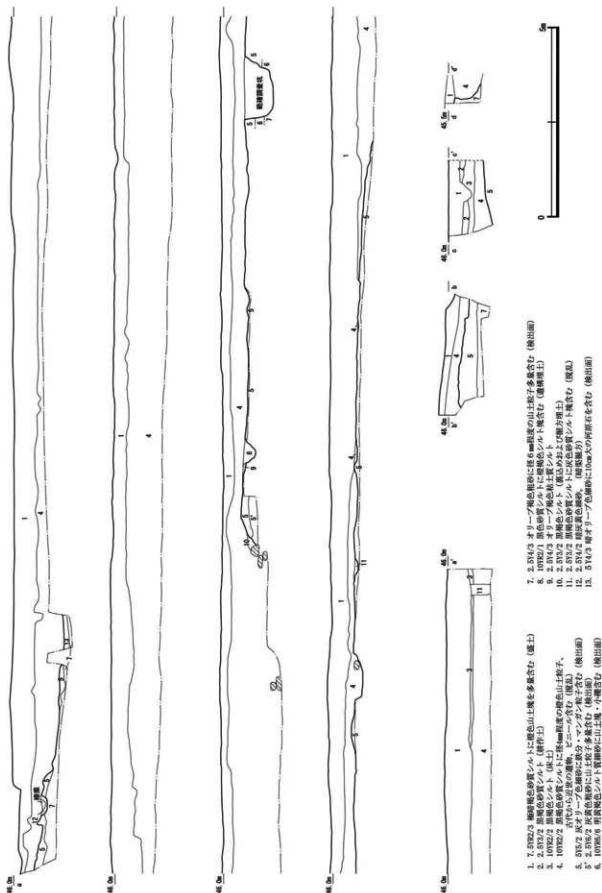
第5図 第2次調査1区平面図(1:150)



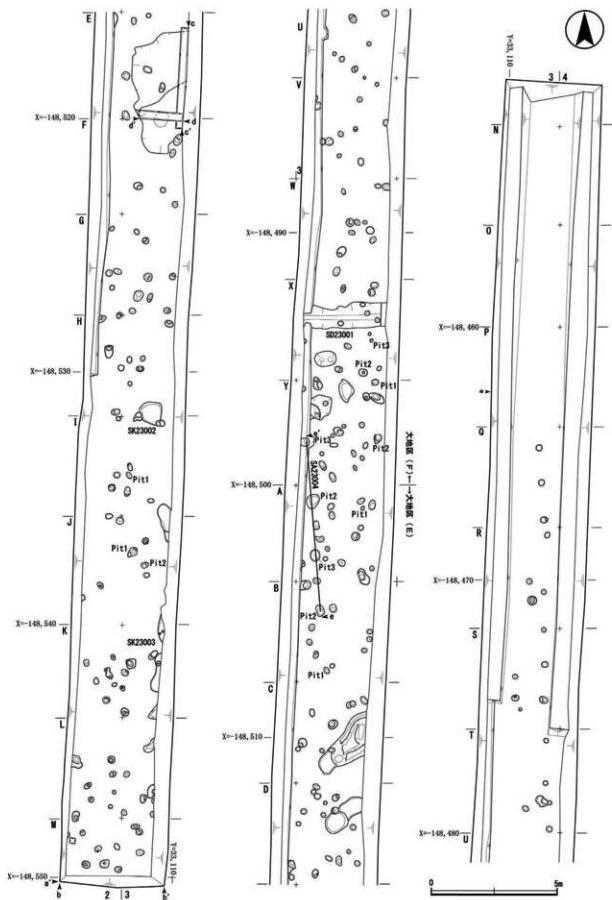
第6図 第2次調査1区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100)

1. 1007/8 黄褐色シルトに出土層多量含む(産土)
2. 2.51/3 オリーブ色砂質シルトに出土粒子含む(産土)
3. 2.51/5 緑黄色砂質シルトにマンガン粒子含む(産土)
4. 2.51/6 緑黄色砂質シルトにマンガン粒子含む(産土)
5. 1007/2 黄褐色シルトに土塊・根を含む(包層部)
6. 1007/2 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
7. 1002/1 黄褐色シルト(産土)
8. 1002/2 黄褐色シルト(産土)
9. 1002/3 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
10. 2.51/4 オリーブ褐色砂に黒色粒子含む(産土)
11. 2.51/2 黄褐色シルトに土塊・砂層・砂層を含む(産土)
12. 2.51/1 黄褐色シルトに土塊・砂層・砂層を含む(産土)
13. 2.51/5 オリーブ色砂質シルトに土塊含む(産土)
14. 1007/3 黄褐色シルト(産土)
15. 1007/3 黄褐色シルト(産土)
16. 1002/2 黄褐色シルト(産土)
17. 1002/3 黄褐色シルト(S2C1004埋土・産物なし)
18. 2.51/2 黄褐色シルトに土塊(S2C1001埋土)
19. 1007/2 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
20. 1007/2 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
21. 1007/2 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
22. 1007/3 黄褐色シルトに土塊含む(産土)
23. 1002/3 黄褐色シルト(産土)
24. 1002/3 黄褐色シルト(産土)
25. 2.51/4 黄褐色シルト(産土)
26. 1002/3 黄褐色シルトに炭化物含む(産土)
27. 2.51/4 オリーブ褐色砂(産土)
28. 1007/2 黄褐色シルト(産土)
29. 1007/2 黄褐色シルト(産土)
30. 1007/3 黄褐色シルト(産土)
31. 2.51/6 オリーブ褐色砂に黒色の土塊含む(産土)
32. 1002/2 黄褐色シルトに炭化物含む(産土)

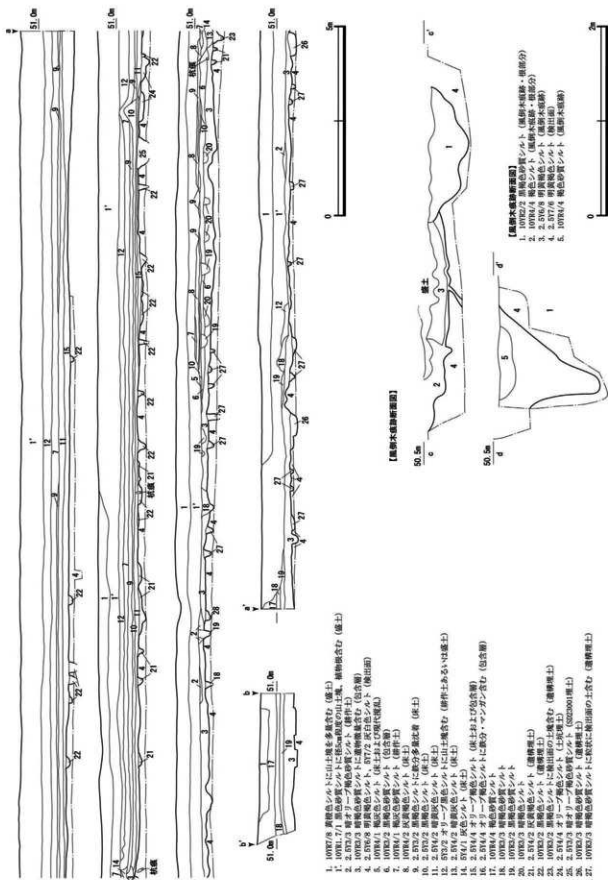




第8図 第2次調査2区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100)



第9図 第2次調査3区平面図(1:150)



第10図 第2次調査3区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100、1:140)

よう。

第1次調査で検出した浅い谷状の落ち込みについては、1区において確認した。なお、その落ち込みからの遺物の出土は確認できなかった。この落ち込みより上の土層には複数の風倒木痕跡が含まれていると判断した。その部分については、部分的にサブトレンチを入れ、断面の観察と記録を行った。(第5・6図参照)3区でも風倒木痕跡を検出したため、断面観察と記録を行った(第9・10図を参照)。

**SK21001** 調査区北半で検出した4.37m以上×4.37mの方形の土坑である。北は調査区外へ延びる。残存深0.37mである。土師器や陶器類が出土している。13世紀前半ごろに属する遺構である。底部まで掘削したところSA21006を構成する柱穴を確認した。

**SD21002** 長さ9.15m以上、幅0.29mの斜行溝で、残存深0.18mである。溝は北東側に向かって浅くなり、調査区内でその端部を検出したが、南西側の端部は、調査区外へ延びる。埋土の状況からみて、1区で最も新しい時期の遺構といえよう。柱穴との重複がみられた。出土した土師器から、所属時期は中世以降といえよう。

**SK21003** 1.34m×0.97mの土坑で、残存深0.15mである。小片ながら、弥生土器壺が出土した。

**SK21004** 0.92m×0.52mの土坑で、残存深0.18mである。12世紀前半の土師器甕が出土した。

**SK21005** 1.10m×0.41mの土坑で、残存深0.21mである。弥生土器壺が出土した。

**SA21006** SK21001底部で確認した柱列である。南北3間、3.10mの部分を検出した。柱穴の規模は平均すると、0.31mの円形で、残存深0.18mである。遺物の出土はないが、周辺状況からSK21001に先行するも

のと判断した。北から3番目の柱穴内には石が残っていたが原位置は保っていないかった。

**SK22001** 0.73m×0.63mの土坑で、残存深0.46mである。土師器が出土していることから、古墳時代中期ごろの土坑であろう。

**SD23001** 長さ3.28m以上、幅1.03mの東西溝で、調査区外へ広がっている。12世紀前半ごろの土師器甕や山茶碗が出土したほか、瓦器碗が出土した。

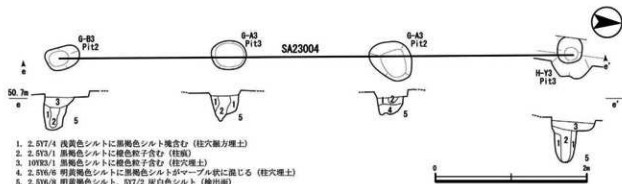
**SK23002** 0.89m×0.93mの土坑で、残存深0.08mである。土師器や陶器の小片が出土している。中世以降の土坑であろう。

**SK23003** 1.10m以上×0.27m以上の土坑で、残存深0.18mである。土師器が出土しているが、ごく小片のため、時期の特定には至らなかった。

**SA23004** 南北方向の柱列である。3間分を検出した。出土遺物はないが、周辺の状況から平安時代末から鎌倉時代初期の遺構といえよう。柱穴の規模は平均で径0.38m、残存深0.41mである。北側は、調査区外へ延び状況は不明だが、掘立柱建物となる可能性がある。南側には広がらない模様である。

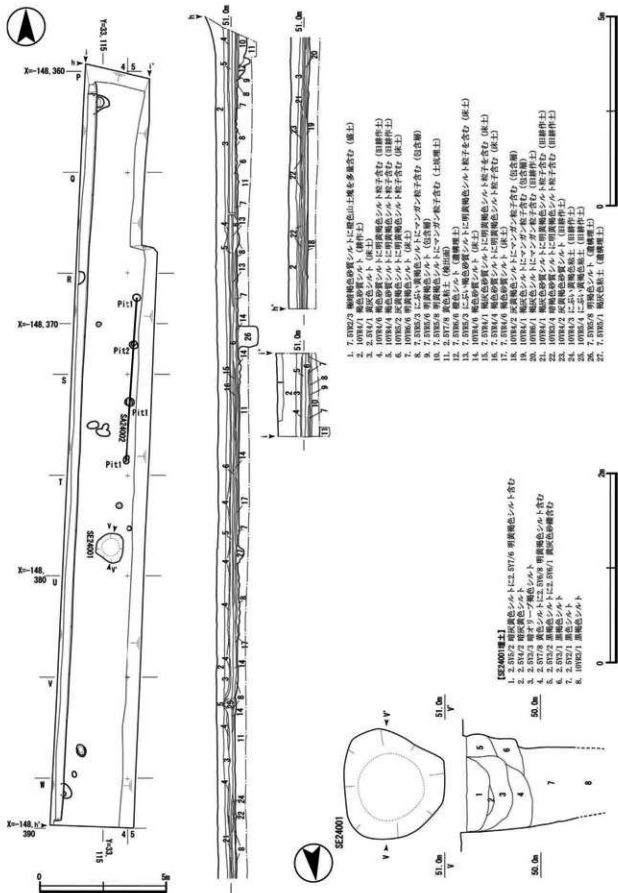
**SE24001** 1.09m×1.17mの素掘りの井戸である。掘削は、安全性を考慮し完掘していない。深さ3.0m程度まで確認をした。土師器、山茶碗、瓦器が出土したほか、遺構の上で鉄滓が1点出土している。土器の様相からみて、12世紀中ごろから13世紀初頭であろう。

**SA24002** 南北方向の柱列である。3間分を検出した。南北方向はこれ以上広がらないが、東側の調査区外に広がる建物となる可能性がある。遺物が出土しておらず、時期の特定はできないものの、周辺の状況から井戸SE24001とほぼ同時期と考えている。

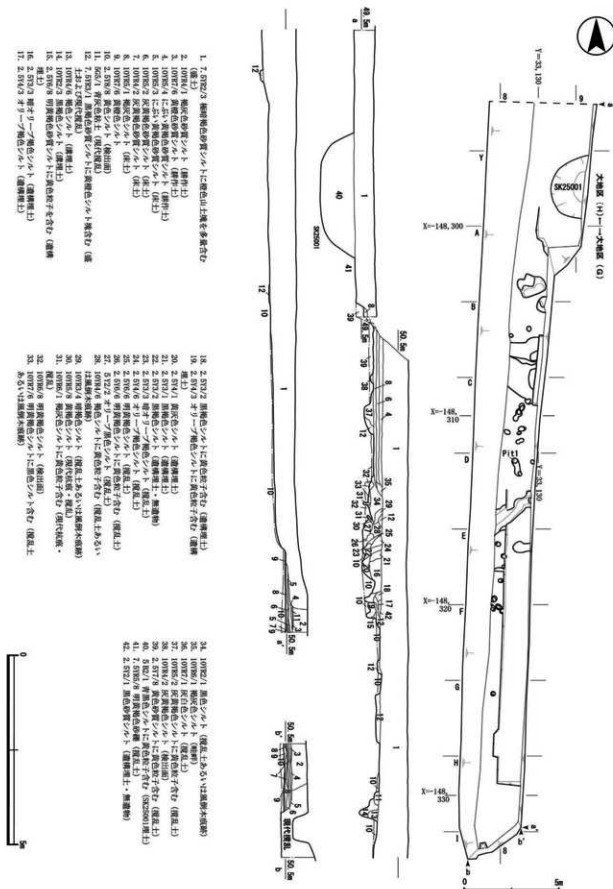


第11図 第2次調査3区SA23004平面図・断面図(1:50)





第12図 第2次調査4区平面図(1:150)、土層断面図(1:100)、SE24001平面図・断面図(1:40)



第13図 第2次調査6区平面図(1:200)、土層断面図(1:100)

柱穴の規模は平均すると、0.31m、残存深は0.22mであった。北から2番目の柱穴には石が残っていたが、原位置は保っていないかった。

SK25001 1.73m以上×3.40mの土坑で、残存深0.93m

である。陶磁器などの出土遺物からみて、近世以降の土坑あるいは素掘り井戸であろう。

(土橋)

調査 次数	調査区	大地区	グリッド	遺構番号	性格	時代	規模 (m)			出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
							長さ	幅	深さ		
1	—	B	V, W14	SK10001	土坑	縄文中～後期	0.57	0.57	0.34	縄文土器	SK1
1	—	B	W11, 12	SF10002	礎土痕	縄文中～後期	0.20	0.31	0.07		SF2
1	—	B	R, X9	SK10003	土坑	縄文中～後期	1.79	1.15	0.34	縄文土器	SK3
1	—	B	V14, 15	SK10004	土坑	縄文中～後期	0.77	0.53	0.29	縄文土器	B-V14P111下層で検出, SK4
1	—	B	V10	SK10005	土坑	縄文中～後期	0.59	0.95	0.18	縄文土器	SK5
2	1	AC	T24, 25	SK21001	土坑	鎌倉	4.37	4.37	0.37	土師器・陶器等	
2	1	AC	X24Eほか	SD21002	斜行溝	中世以降	9.15	0.29	0.18	土師器	C-X23P111～SD21002
2	1	AC	X25	SK21003	土坑	弥生	1.34	0.97	0.15		
2	1	AC	S24	SK21004	土坑	鎌倉	0.92	0.52	0.18	土師器	
2	1	AC	Y24	SK21005	土坑	不明	1.10	0.41	0.21	土師器	
2	1	AC	T24	SA21006	南北柱列	不明	3.10	-	-		SK21001近で確認。南北3間、柱間北から0.9m、0.9m、1.1m、C-T24P111・2・3・4、P113に板石(原位置不保持)
2	2	AD	X25	SK22001	土坑	古墳中	0.73	0.63	0.46	土師器	
2	3	F	X3	SD23001	東西溝	鎌倉	3.28	1.03	0.20	土師器・陶器・瓦器ほか	
2	3	E	H, 13	SK23002	土坑	室町	0.89	0.93	0.08	土師器・陶器	
2	3	E	J, K3	SK23003	土坑	不明	1.10	0.27	0.18	土師器	
2	3	E・F	Y～R23	SA23004	南北柱列	不明	7.11	-	-		鎌倉か、南北3間検出。柱間北から2.4m、2.1m、2.4m、H-X23P113・G-A3P112, 3・G-B3P112
2	4	G	T4	SE24001	井戸	鎌倉	1.09	1.17	3.00	土師器・陶器・瓦器	素掘り井戸か、完面できず。遺物はSKとして取り上げ
2	4	G	R, T5	SA24002	南北柱列	不明	6.74	0.31	0.22		南北3間、東西方向に広がるか、柱間北から1.9m、2.2m、1.9m、I-R5P111, 2・I-S4P111・I-S5P111
2	5	H	Y8, 9	SK25001	土坑	近世以降	1.73	3.40	0.93	陶磁器	素掘り井戸になる可能性あり

第1表 遺構一覧表

### 3 遺物

#### (1) 出土遺物の概要

第1次調査においては、縄文時代から鎌倉時代・室町時代までの土器・陶磁器・石器および石製品等が出土している<sup>10</sup>。

第2次調査においては、縄文時代から近世までの土器・陶磁器<sup>10</sup>・鉄滓等が出土している。

ここでは、第1次調査及び第2次調査の遺構、遺物包含層の出土遺物である土器・陶磁器等(石製品・鉄滓を含む)を示す。各遺物の詳細については出土遺物観察表(第2～13表)を参照されたい。

#### (2) 範囲確認調査(第14図)

包含層(1・2) 遺物包含層からの出土と考えられる。1・2はいずれも縄文土器深鉢である。1は少し外傾する口縁部片である。細かい条線が一部に見られる。2は底部片、外面には網代痕が明瞭に残る。これらは、縄文時代後期、いわゆる緑帯文土器期の範疇と考えられる。

#### (3) 第1次調査(第15～26図)

##### a 遺構出土遺物

SK10001(3) 3は縄文土器深鉢、体部片であろうか。沈線による施文が一部に見られる。縄文時代後期前半期に属するものと考えられる。

SK10003(4～19) 4～19は縄文土器、4～13は口縁部、14～18は体部、19は底部である。11は鉢、12、13はボウル状の浅鉢、これら以外は深鉢となる。4は口縁部外面に8字状の浮文、横位の沈線下には縄文がみられる。器形はバケツ状になると考えられる。堀之内式系のものといえよう。5、7は口縁部が肥厚する、いわゆる緑帯文土器期の特徴を示している。10は沈線間に刺突が施されている。11は内折する口縁部自体が外反する。無文の口縁部、頸部に横位の沈線文を施されるものといえよう。12は内湾する口縁部外面に沈線による幾何学状の文様が施されている。13は内湾する口縁部の無文土器である。14・15は磨消縄文が施されている。16は外面に条線がみられる。17・18は桶状突起の一部であろうか。これらは、縄文時代後期前半期に位置付けることができよう。

SK10004(20～26) 20～26は縄文土器、20～23は口縁部、24・25は体部、26は底部である。器種としては、深鉢と考えられる。20は浅い沈線が一部に残る。

21～25は加飾のない無文土器である。22は口縁部に1カ所内側にオサエがみられる。26の底面には一部網代痕がみられる。いずれも縄文時代後期前半期のものと考えられる。

SK10005(27～40) 27～40は縄文土器、27～30は口縁部、31～39は体部、40は底部である。27・30は横位の沈線が外面にみられる。28・38・39は無文土器である。29は肥厚する口縁部外面に縄文が施されている。小波状を呈しているものか。31・32・34は沈線と縄文が外面に施されている。いわゆる磨消縄文の範疇であろう。33・36は条線が外面にみられる。35・37は縄文が外面に施されている。40は底部外面に網代痕がみられる。これらは縄文時代後期前半期のものと考えられる。

Pit(41・42) 2点とも縄文土器深鉢である。41は無文土器の口縁部片、42は無文土器の体部片である。これらは縄文時代後期前半期のものと考えられる。

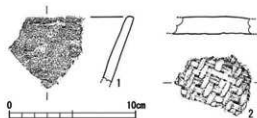
##### b 落ち込み堆積層出土遺物

落ち込み堆積層としたものについては、調査当初は風倒木痕としたものを、検抄のうえ浅い谷状の落ち込みに堆積したものと把握した。ここから、縄文土器(43～92)、石器・石製品(325・326)が出土した。遺物観察表には「落ち込み」と表記している。

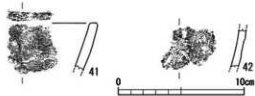
43は注口土器の注口部分である。加飾がないものである。44～92は縄文土器深鉢と考えられる。44～65は口縁部片、66～82は体部片である。44～55、57～60、62・64・65は加飾のない無文土器といえる。49は口縁部が肥厚している。51は短い口縁部が外反している。58は少し口縁部が内湾している。64・65は細いヘラ状工具による強めのナデが外面にみられる。56は肥厚する口縁部端部に2条の沈線が施されている。風化が進んでいるのか、口縁部端部や沈線間には施文は確認できない。緑帯文土器成立期に属するものであろう。61・63は縄文が外面全体にみられる。いわゆる縄文地土器である。66は外面に横走する陸帯上にキザミ、以下に2条の沈線が縦方向に延びる。67・70・71・73・74は外面に複数の沈線文が施されている。68・69・72は沈線間に縄文がみられる。磨消縄文系といえる。75～80は縄文が外面全体にみられる。いわゆる縄文地のものである。81は縦方向の

条線が外面に施されたものである。82は頸部付近のもので、外面に格子状に条線が施されている。83～92は底部片である。平底のものである。明瞭な凹底は示していない。これらは、縄文時代後期前半期に

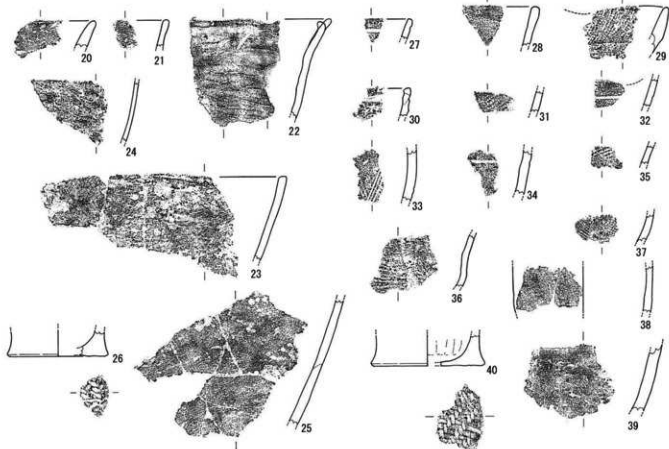
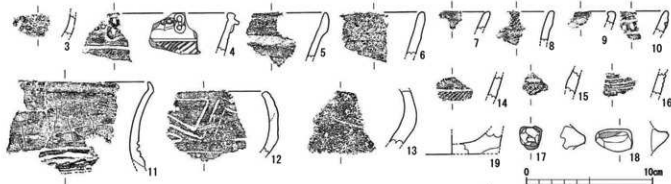
属するものと考えられる。つづいて、石器について述べる。325はサヌカイト製の楔形石器である。崩断面を有し、横長の形状のものであろう。本器種特有の階段状剥離が残っている。326はサヌカイト製



第14図 範囲確認調査出土物実測図(1:3)



第16図 第1次調査出土物実測図2(1:3)



第15図 第1次調査出土物実測図1(1:3)

の削器である。刃部の形成は規則的ではなく、任意の縁辺の一部に安定して形成をしているようである。前述した縄文土器と同時期のものであろう。

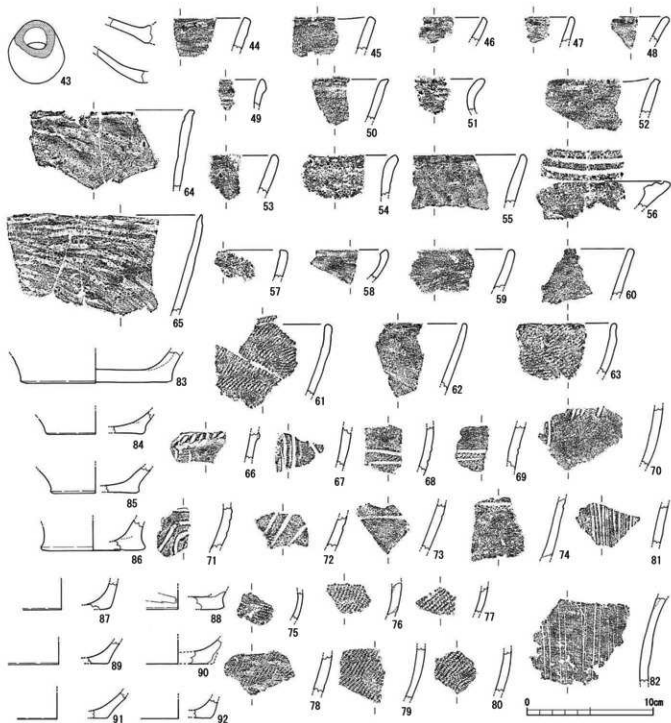
**c 表土・遺物包含層等出土遺物**

表土・遺物包含層等からの出土遺物を一括して報告をする。落ち込みのものは分別した。

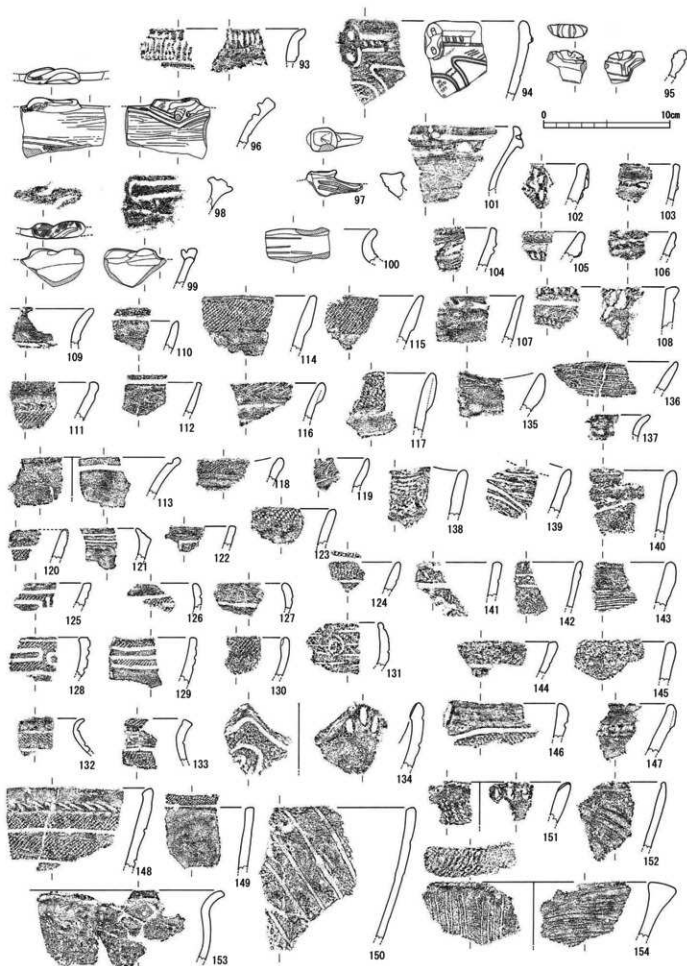
132・133・185・284は縄文土器鉢、153・201は縄文土器浅鉢であろうか。225を除くこれら以外は縄

文土器深鉢であろう。93～219は口縁部片、220～224・226～283は体部片、284～324は底部片である。

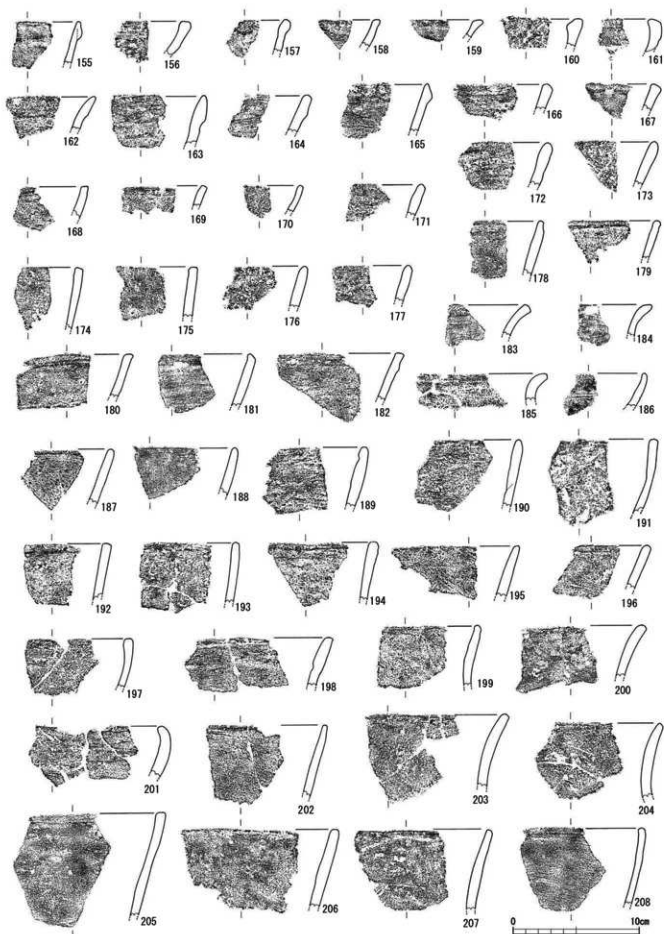
93は外面に横位の沈線文間に半截竹管による施文がみられるもの、断面が半円状になるほど強い押し引きではないようである。内面にはキザミがみられる。縄文時代中期前半に属するものであろう。94は外面の上部に8字状浮文とそこから横走る貼付隆帯上にキザミがみられる。以下には2条の沈線文



第17図 第1次調査出土遺物実測図3 (1:3)



第18圖 第1次調査出土遺物実測圖4 (1:3)

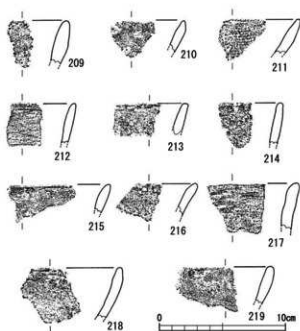


第19圖 第1次調査出土遺物実測図5 (1:3)

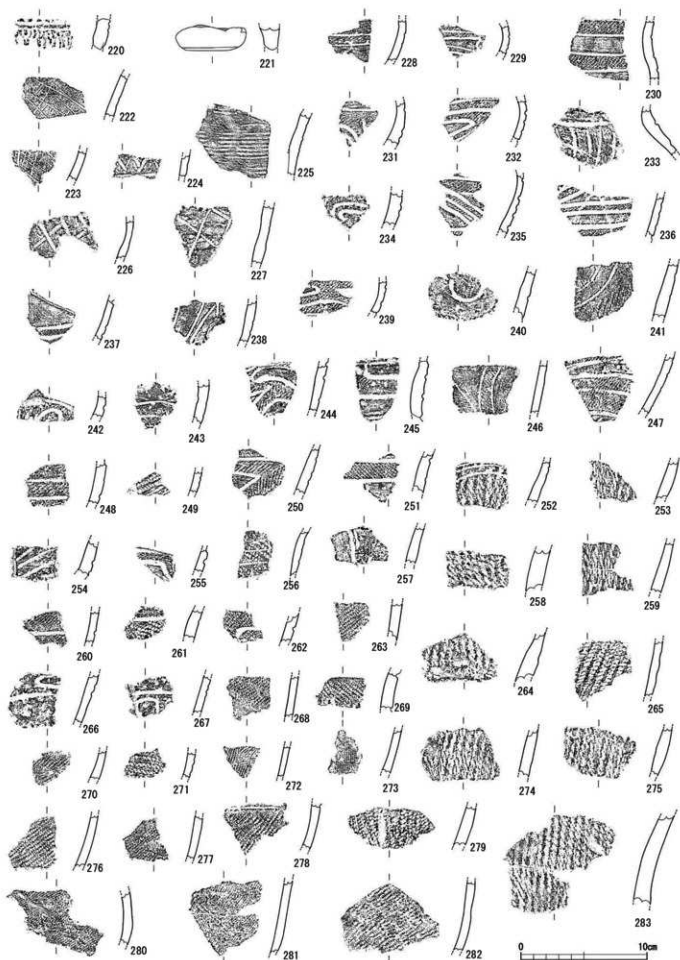


間に縄文が施されている。器形はバケツ状となる、堀之内式系のものであろう。95は口縁端部に小突起がみられる。それを巡るかのように沈線文が内外面に施されている。96は口縁端部に粘土ひもを捻転させた小突起がみられ、一部には縄文が施されている。それを巡るかのように沈線文が内面に施されている。外面は小突起以下が無文となり頸部以下に横走する2条の沈線文がみられる。99も小突起のある同じ造作である。97は口縁端部に小突起がみられる。その位置から外面には横走する2条の沈線が延びる。98は口縁端部に1条の沈線文による方形の区画文が施されている。100は橋状突起の一部分であろうか。101は段差がついた肥厚する口縁部外面に塗切れた1条の沈線文がみられる。それぞれの沈線端は棒状工具による円形の刺突がある。102は8字状浮文が残る。103~106は貼付隆帯上にキザミがみられる。108は縄文と沈線による文様が施されたものか。109は頸部付近に沈線文がみられる。110は口縁端部に縄文が施されている。111は横位の隆帯上にキザミ、以下に縄文が施されている。112は無文土器である。113は内面に1条の沈線文が施されている。時期が新しいものか。114・115・117~119・123・130は肥厚する口縁部に縄文が施されたものである。123・130は口縁部の肥厚が少なくなっている。116は肥厚する口縁部に条線がみられる。120は沈線

間に縄文が施されたものである。121は内折する口縁部外面に2条の細い沈線がみられる。122・127は外面に沈線が施されている。124は若干肥厚する口縁部端部と外面に縄文、その下に沈線がみられる。125・126・128・129・131~134は沈線間に縄文が施されたものである。125・126は3条の沈線間に縄文が施されたものであろうか。128は横位の3条の沈線と縄文が施されている。131は口縁に沈線による円弧文、そこから3条ないし4条の沈線が横走する。沈線自体が細い。134は波状口縁で、口縁部外面に2条の沈線間に縄文が施されている。J字状になるものといえよう。波頂部内面に3カ所のキザミがみられる。135・137・140は加飾がない無文土器である。136・139・143は外面に条線が施されている。138は外面に縄文がみられる。141は外面に沈線がみられる。142は横走する沈線間に刺突がみられる。144は外面に沈線と縄文が施されている。145は肥厚する口縁部外面に縄文がみられるものであろう。146は太い沈線間に縄文が施されているものである。147・152は口縁部が肥厚している。加飾のない無文土器である。148は口縁部に横走する貼付隆帯上にキザミ、沈線間に縄文が施されている。堀之内式系である。149は口縁端部に細かい縄文がみられる。150は間隔をあげた平行沈線が斜行している。口縁部ではない可能性がある。151は外面に押圧縄文、内面はキザミがみられる。153は外反する短い口縁を持つ。外面には細密な条線がみられる。154は大きく肥厚する口縁端部に縄文、外面に縦方向に条線がみられる。155~165は肥厚する口縁部をもつ。157は肥厚する部分に縄文がみられる。160は外面に縄文がみられ、肥厚する口縁端部に1条の沈線が巡るようである。これら以外は加飾のない無文となる。166~169・171~185・187~210・212~219は外面に加飾がない無文土器である。口縁端部や口縁部の形状は多様である。170・211は外面に縄文が施されているようである。186は外面に条線がみられる。ここまでの文末に所属時期がないものについては、縄文時代後期前半期に属するものといえよう。220は外面に半截竹管の押しによる断面がかまぼこ状の横走する文様がみられ、以下に同じ半截竹管による刺突もみられる。221は脚付鉢脚部と思われる。222・223



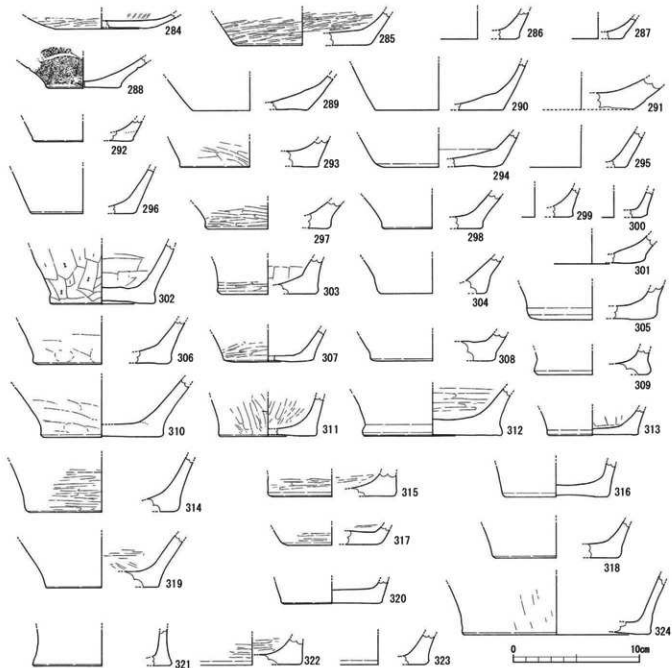
第20図 第1次調査出土遺物実測図6(1:3)



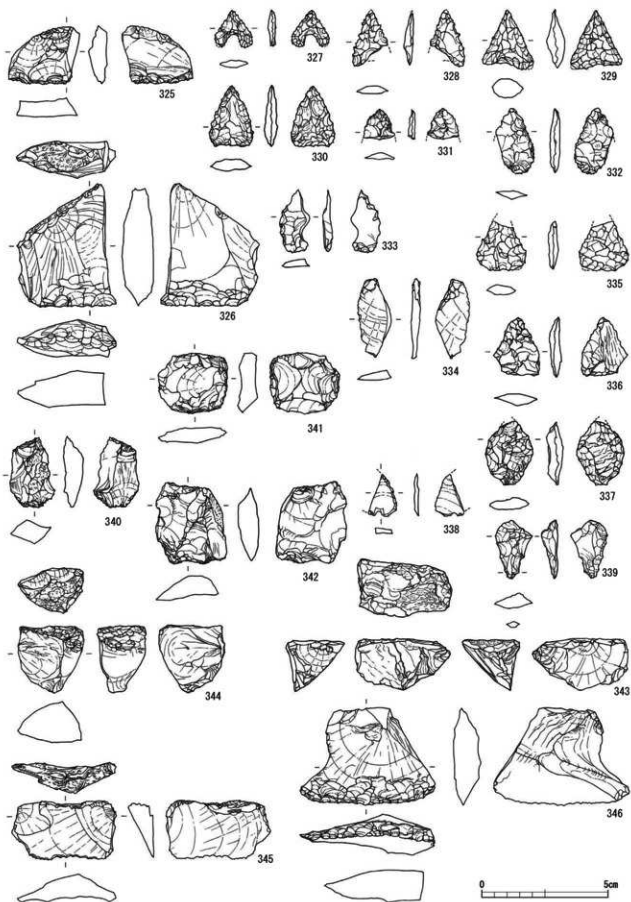
第21圖 第1次調査出土遺物実測圖7 (1:3)

は外面に格子状の条線がみられる。224・226・227は外面に格子状に沈線が施されたものである。225は外面に横位の櫛描文がみられる。弥生土器壺か。228～233・235～237・239～251・254～257・260～262は外面に沈線間に縄文が施されたもので、無文の部分が残る磨消縄文が多くみられる。229・232・235は外面に3条の沈線による文様構成がみられる。234・238・266・267は外面に沈線がみられる。234は沈線間に淡い赤彩の可能性がある。239は外面に沈線による楕円状の区画文が施されている。区画内

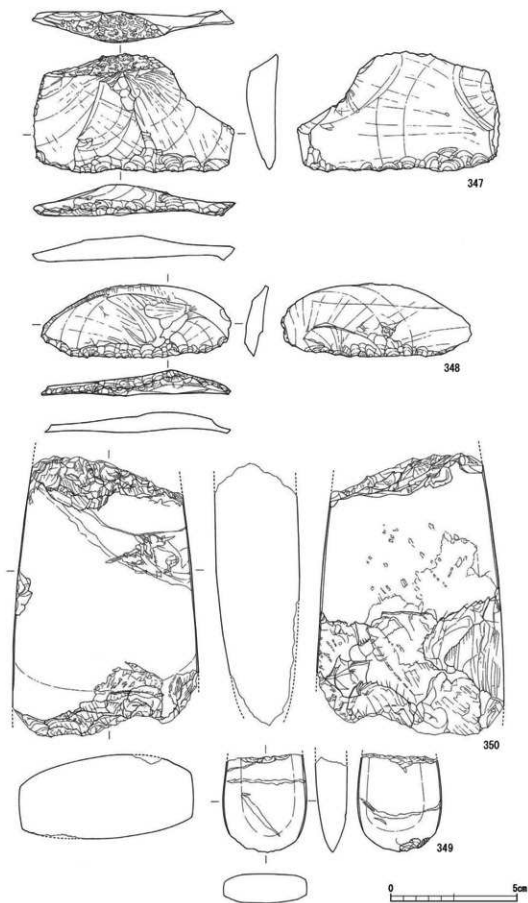
は無文となっている。263・268～273・276～278・280～282は外面に縄文が施されている。271は絡糸体による施文の可能性がある。273は施文の原体が縄でない可能性がある。252は外面には縄文と半截竹管の押しによる文様が弧状に施されている。253・258・259・264・265・274・275・279・283は外面に縄文がみられる。これらの縄文原体は本遺跡で確認できるものとは差違がある。これらの所属時期については、器厚の厚みに差違があり、縄文時代中期に遡る可能性があろう。ここまでのところで、文末に



第22図 第1次調査出土遺物実測図8 (1:3)



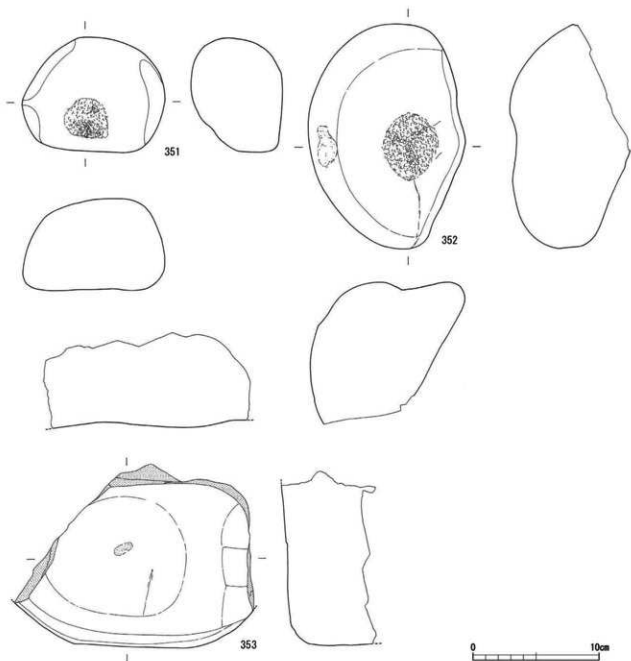
第23圖 第1次調査出土遺物実測圖9(2:3)



第24図 第1次調査出土遺物実測図10(2:3)

所属時期を述べているもの以外は、縄文時代後期前半期に属するものと考えられる。284は底部に脚部が付く可能性がある。285～324は平底の底部片である。288は沈線と縄文が一部に施されている。底部から直線的に体部に向けてちちあがるものと接地面が少し膨らみちちあがるものがある。これらは、概ね縄文時代後期前半期に属するものといえよう。284は縄文時代中期後半期に遡る可能性がある。

327～353は石器で、縄文時代中期から後期にかけてのものといえよう。327～332・335～337は石畿である。327～329は基部が凹んだ形状で、330・335・336は基部が平らな形状である。なお、336は石畿へ成形途中に放棄されたものの可能性がある。331・332は基部を欠いている。337は基部側に自然面が残る。333は石畿未製品あるいは二次加工痕有剥片とみられる。334は使用痕有剥片である。339は石錐ま



第25図 第1次調査出土遺物実測図11(1:3)

たは石織末製品である。340～342は楔形石器である。343・344は石核である。一部自然面が残る。345は使用痕有剥片である。346～348は削器である。349・350は磨製石斧である。349は基部を欠いている。353は台石と考えられる。一部に面的な擦痕を確認している。

354は灯明皿として使用されていた陶器皿、江戸時代のものであろう。355・356は土師器羽釜である。357・358は土師器鍋である。これらは中世に属するものといえよう。359は弥生土器底部片である。剥離が多いため残りが良くない。360は山茶碗口縁部、361～368は山茶碗底部である。これらは藤澤編年4～5型式にあたろう。369は陶器鉢である。370は鉄袖のみられる陶器皿である。371は瀬戸産の陶器皿である。これらは概ね江戸時代に属するものであろう。

#### (4) 第2次調査(第27回)

##### a 遺構出土遺物

SK21001(372～377) 372は瓦器碗である。373～377は山茶碗である。いずれも13世紀前半ごろのものである。

SK21004(378) 土師器鍋である。12世紀前半ごろのものか。

SK21005(379) 弥生土器壺で、口縁部のみ出土である。内外面共にハケ・ナデを施し、立ち上がった口縁部外面に節状工具による矢羽状の刺突、ナデが

みられる。

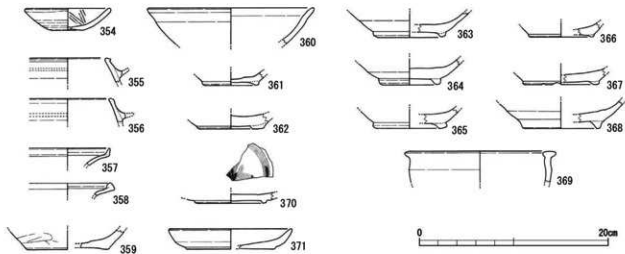
SK22001(380・381) 380は土師器壺の頸部付近のものか。381は土師器台付甕の口縁部片である。古墳時代中期ごろのものである。

SK23002(382) 土師器杯である。12世紀ごろのものであろうか。

SD23001(383～393) 383～385は瓦器碗である。386～388は山茶碗である。389は山皿、高台に粉痕がみられる。藤澤編年4～5型式にあたるものである。390・391はクロロ土師器皿である。392は土師器皿である。389とほぼ同時期と考ええる。

3区Pit(394～397) 394は瓦器碗である。395は山茶碗で、藤澤編年5型式にあたる。13世紀前半ごろのものである。396はクロロ土師器皿である。397は土師器皿である。395とほぼ同時期のものであろうか。

SE24001(398～417) 398・399は内側の埋土から出土したものである。398は山茶碗である。藤澤編年5型式にあたり、13世紀前半ごろのものである。399はいわゆる椀形鉄滓である。400～415は埋土の外側から出土したものである。400は土師器皿、401は山皿口縁部片、402は瓦器碗の底部片である。403・404は山茶碗である。藤澤編年4から5型式にあたる。405は土師器鍋である。いずれも12世紀後半から13世紀初頭にかけてのものであろう。406・407・409・410は山茶碗である。406・407はやや古相の玉縁碗にもみえる。409・410は藤澤編年5から6型式

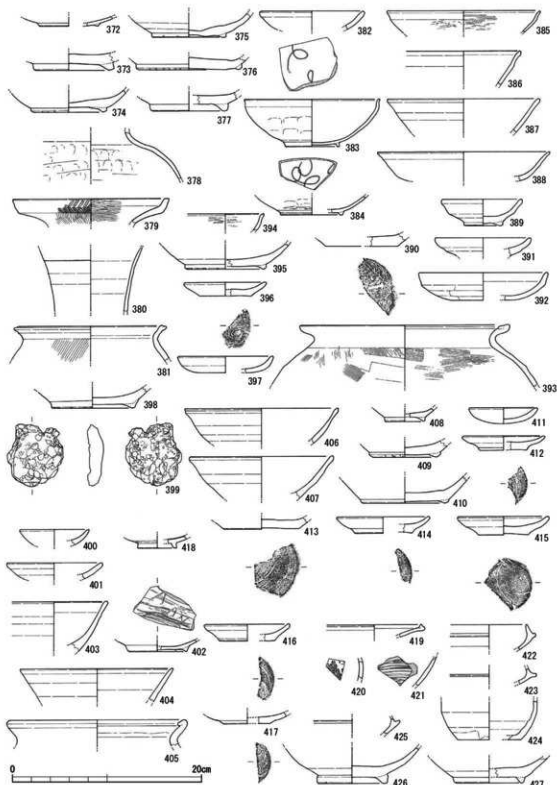


第26図 第1次調査出土遺物実測図12(1:4)

のものであろう。408は山皿で、藤澤編年第4型式か。411は土師器皿である。412～415はロクロ土師器皿である。416・417は埋土下層からの出土で、いずれもロクロ土師器皿である。12世紀ごろのもので

あろう。

SK25001(418) 灰釉陶器皿である。9世紀ごろのものであろう。



SK21001:  
372～377  
SK21004:378  
SK21005:379  
SK22001:  
380・381  
SK23002:382  
SD23001:  
383～393  
3 EX3pl(2):  
394～397  
SE21001:  
398～417  
SK25001:418  
2区包含層等  
:419～424  
3区包含層等  
:425～427

第27図 第2次調査出土遺物実測図(1:4)



## b 表土・包含層等出土遺物

**2区包含層(419~424)** 419は土師器鍋である。420は磁器片である。施軸方法が型紙を使用したものであることからみて、明治期のものである。421は瓦器碗である。422・423は須恵器杯、飛鳥時代のもの

か。424は瀬戸産陶器壺である。江戸時代のものである。

**3区包含層(425~427)** 425は須恵器杯、飛鳥時代のものか。426・427は山茶碗で、藤澤編年第4から5型式のものであろう。(土橋)

## 註

(1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。

縄文土器・石器：三重県埋蔵文化財センター『新徳寺遺跡』1997年／小濱学「東海地方における福田Ⅱ式土器群の様相」『立命館大学考古学論集Ⅰ』立命館大学考古学論集刊行委員会、2003年／小濱学「高瀬Ⅱ遺跡 2 縄文時代中・後期土器」『研究紀要 第11号』三重県埋蔵文化財センター、2002年／山崎貞治「縄文土器の編年の研究」『東京大学考古学研究会研究紀要18』東京大学考古学研究室、2003年／加納実「堀之内式土器」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／石田由紀子「中津式・福田Ⅱ式土器」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／千葉豊「緑野土器」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「四瀬文土器(宮地式土器・元住吉山Ⅱ式土器)」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「平行磨光縄文土器群」の成立-北白川上層式と元住吉山式のみだ-『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論集4』真陽社、2020年／千葉豊「北白川小倉町遺跡における土器分類」『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論集4』真陽社、2020年／高野紗奈江「縄文原体に見る近畿地方縄文時代後期の堀之内系器種」『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論集4』真陽社、2020年／上原史実2018『縄文石器 その視角と方法』京都大学学術出版会、2018年／三重県埋蔵文化財センター『鈴山遺跡(第2・3次)発掘調査報告』2018年／三重県埋蔵文化財センター『中野山遺跡(第4・5・8~13次)発掘調査報告』2022年／宮井眞「北白川C式土器」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／鍋橋茂・高橋健太郎「中富式・神明式土器」、『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年。

弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹ノ遺跡』2000年／愛知県埋蔵文化財センター『瀬間遺跡』1990年  
古代の土師器：香宮歴史博物館「香宮発掘調査報告1」2001年  
須恵器：奈良文化財研究所「飛鳥・藤原宮発掘調査報告V」2017年  
灰輪陶器：橋崎彰一「猿投塚の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会、1983年  
中世土器：伊藤裕隆「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考2、三重県、2008年／伊藤裕隆「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋貞Ⅱ』三重県埋蔵文化財センター、2000年  
山茶碗：藤澤良佑「山茶碗の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年  
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良佑「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、2002年／「旋輪陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年／「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年  
常滑：中野隆久「奈良・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年  
貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社／禮仲一郎「中世後期の貿易陶磁器」(同上)  
瓦：山崎信二「中世瓦の研究」奈良国立文化財研究所、2000年／「近世瓦の研究」奈良文化財研究所、2008年  
(2) 前川憲宏「三重県における山茶碗の出土状況」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年

NO	発掘番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位埋存状況	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	色調	特記事項
							口径	高さ	器高				
1	044-03	縄文土器	深鉢	範囲T2	口縁部	-	-	-	内：ナガ 外：ミガキ	中々	黒	層ⅢC3/0、にぶい、高瀬Ⅱ0187/2	
2	044-02	縄文土器	深鉢	範囲T2	底面	-	-	-	内：ナガ、オサエ 外：不明	中々	黒	茂原層Ⅱ0188/3 高瀬Ⅱ.3014/1	
3	001-01	縄文土器	深鉢	B・V・V14	SK10001	体部	-	-	内：ナガ 外：不明	滑	黒	茂原層 表面摩滅	
4	004-01	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ミガキ 外：貼り付け、注線、縄文	滑	黒	にぶい、堀 5186/3	
5	005-05	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ミガキ 外：ミコナガ、ナガ	滑	黒	茂原層 10185/2	
6	007-01	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ミガキ 外：ミコナガ、ナガ	滑	黒	にぶい、高瀬 10184/3	
7	001-06	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ミガキ 外：不明	滑	黒	茂原層 10184/2	
8	002-01	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ミガキ 外：縄文、ミガキ	滑	黒	にぶい、高瀬 10183/3	
9	003-03	縄文土器	深鉢	B・9・39	SK10003	口縁部	-	-	内：ナガ 外：ミガキ、ナガ	滑	黒	にぶい、堀 5186/4	

第2表 出土遺物観察表1

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
10	002-02	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線,刺突	滑	灰黄緑 10YR4/2		
11	001-02	縄文土器	鉢	B-8・39	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ヨコナデ,ミ ガキ,沈線,刺突	滑	にぶい黄緑 10YR5/3		
12	001-03	縄文土器	浅鉢	B-8・39	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,沈線	滑	にぶい黄緑 10YR5/3		
13	001-06	縄文土器	浅鉢	B-8・39	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文カ	滑	橙7.5YR6/6	表面摩滅	
14	001-09	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈線,縄文	滑	にぶい黄 7.5YR5/3		
15	002-04	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	体部	-	-	-	内:ナデカ 外:沈線,縄文	滑	にぶい黄緑 10YR6/3	口縁部摩滅	
16	002-05	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線	滑	にぶい黄緑 10YR5/3		
17	002-07	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	体部	-	-	-	外:オサエ	滑	灰黄緑 10YR5/3	縁状突起	
18	002-06	縄文土器	深鉢	B-8・39	SK10003	体部	-	-	-	外:ナデ	滑	にぶい黄緑 10YR6/3	縁状突起	
19	001-10	縄文土器	深鉢カ	B-8・39	SK10003	底面	-	-	-	内:ナデ 外:オサエ	滑	にぶい黄緑 10YR5/3		
20	002-05	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線,ケズリ	やや 滑	にぶい黄緑 10YR7/3	下層	
21	003-03	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや 滑	橙 5YR7/8	土壌化層	
22	003-06	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナデ	やや 滑	橙7.5YR7/1,にぶ い黄7.5YR6/3	外面無装 是下層	
23	002-02	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,ケズリ	やや 滑	灰黄緑 10YR8/3	取上No.4	
24	003-01	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 滑	褐色 7.5YR4/1	取上No.2 外面凹凸	
25	002-06	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ケズリ,ミガキ	滑	にぶい黄緑 10YR6/3	取上No.1,3	
26	004-04	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	底面 1/12	-	7.4	-	内:ナデ 外:刺突,ナデ	やや 滑	橙 2.5YR7/8	土壌化層	
27	004-05	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ミガキ 外:ミガキ,沈線	やや 滑	黄緑 7.5YR3/1	内外面装	
28	004-04	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや 滑	褐色 7.5YR4/1		
29	003-02	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,ナデ	やや 滑	にぶい黄緑 10YR7/3	取上No.1	
30	004-03	縄文土器	不明	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線	やや 滑	灰白 10YR8/2	表面摩滅	
31	004-08	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線,縄文	やや 滑	灰黄緑10YR8/3 褐色N3.0		
32	004-07	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ,沈線,縄文	やや 滑	灰黄緑 7.5YR8/3		
33	005-02	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,条線	やや 滑	灰黄緑10YR5/2		
34	004-02	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線	やや 滑	灰黄緑 7.5YR8/3	取上No.3	
35	004-06	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,縄文	やや 滑	黄緑 10YR3/1		
36	005-03	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内: 外:ナデ,条線	やや 滑	にぶい黄緑 2.5YR4/4		
37	005-01	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,縄文	やや 滑	橙 5YR6/6		
38	005-04	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや 滑	にぶい黄 10YR7/4		
39	004-01	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや 滑	褐色 N3.0	取上No.2	
40	005-05	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	底面 2/12	-	8.6	-	内:ナデ 外:ナデ,刺突	やや 滑	橙 5YR7/6		
41	010-05	縄文土器	深鉢	B-V14	P11.1	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 滑	灰黄緑 7.5YR8/4		
42	024-03	縄文土器	深鉢	B-W15	P11.1	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデカ	滑	黄緑 10YR3/2	表面摩滅	
43	005-07	縄文土器	大口土器	B-V13	落ち込み	口内面	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや 滑	黄緑 7.5YR3/3	風割木痕跡	
44	011-04	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナデ	やや 滑	にぶい黄緑 10YR6/3	風割木痕跡	
45	010-02	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや 滑	にぶい黄緑 10YR7/3	風割木痕跡	
46	003-03	縄文土器	深鉢	B-W11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ,ヨコナデ 外:ミガキ	滑	にぶい黄緑 10YR7/4	風割木痕跡	
47	007-06	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ,ヨコナデ 外:ミガキ	滑	灰黄 7.5YR5/2	風割木痕跡	

第3表 出土遺物観察表2

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位残存状況	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
48	006-04	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ,ヨコナデ 外:ニガキ	滑	-	にぶい黄緑 10YR3/3	風防木造跡
49	011-02	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,ナデ	やや滑	-	にぶい黄 7.5YR7/4	風防木造跡
50	011-06	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,ナデ	やや滑	-	にぶい黄緑 10YR7/3	風防木造跡
51	005-06	縄文土器	深鉢	B-912・13	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや滑	-	浅黄緑 7.5YR8/4	風防木造跡
52	011-05	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,ナデ	やや滑	-	浅黄緑 7.5YR8/4	風防木造跡
53	011-03	縄文土器	深鉢小	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ,ナデ 外:不明	やや滑	-	灰白 10YR8/2	表面摩滅 風防木造跡
54	008-06	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ小 外:ナデ小	滑	-	橙 7.5YR7/6	表面摩滅 風防木造跡
55	005-04	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ,ヨコナデ 外:ナデ	滑	-	にぶい黄 7.5YR5/4	風防木造跡
56	008-04	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ小 外:ナデ,口縁部注線	滑	-	にぶい黄 7.5YR7/4	表面摩滅 風防木造跡
57	012-02	縄文土器	深鉢	B-912	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,ニガキ	滑	-	灰黄緑 10YR5/1	風防木造跡
58	007-04	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ヨコナデ 外:ナデ	滑	-	にぶい黄緑 10YR3/3	風防木造跡
59	011-08	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや滑	-	灰白 10YR8/2	風防木造跡
60	010-01	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ,ナデ 外:ケズリ,ナデ	やや滑	-	浅黄緑 10YR8/3	風防木造跡
61	007-05	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文,口縁部縄文	滑	-	焼灰 7.5YR4/1	風防木造跡
62	011-07	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや滑	-	橙 2.5YR6/8	風防木造跡
63	008-03	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ニガキ,ヨコナデ 外:縄文	滑	-	灰黄緑 10YR5/2	風防木造跡
64	008-02	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ,ヨコナデ 外:ナデ,ニガキ	滑	-	にぶい黄 7.5YR6/4	風防木造跡
65	008-01	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ,ニガキ 外:ナデ	滑	-	焼灰 10YR4/1 にぶい黄緑 10YR4/3	風防木造跡
66	011-01	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,キザシ,沈線	やや滑	-	焼灰 7.5YR4/1	口縁部欠 風防木造跡
67	006-06	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:ナデ,沈線	滑	-	にぶい黄緑 10YR5/3	風防木造跡
68	007-02	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ニガキ,沈線,縄文	滑	-	にぶい黄 7.5YR6/4	口縁部欠 風防木造跡
69	010-07	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:縄文,ニガキ,沈線	やや滑	-	にぶい黄緑 10YR6/3	風防木造跡
70	010-08	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:ニガキ,沈線	やや滑	-	にぶい黄緑 10YR7/3	風防木造跡
71	010-03	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:ナデ,沈線	やや滑	-	黒緑 5YR7/1	口縁部欠 風防木造跡
72	006-02	縄文土器	深鉢	B-98	落ち込み	体部	-	-	-	内:不明 外:沈線,縄文	滑	-	にぶい黄緑 10YR6/4	表面摩滅 風防木造跡
73	006-07	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ小 外:沈線	滑	-	にぶい黄 10YR7/3	表面摩滅 風防木造跡
74	006-06	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ小 外:沈線	滑	-	にぶい黄 10YR6/3	表面摩滅 風防木造跡
75	005-09	縄文土器	深鉢	B-913	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:縄文	やや滑	-	黒緑 5YR5/1	取上No.1 風防木造跡
76	007-07	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:縄文	滑	-	明緑 7.5YR5/6	風防木造跡
77	007-08	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:縄文	滑	-	にぶい黄緑 10YR5/4	風防木造跡
78	010-05	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや滑	-	焼灰X3/0,にぶい 黄 7.5YR7/4	風防木造跡
79	010-06	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや滑	-	にぶい黄緑 10YR7/3	風防木造跡
80	010-04	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	体部	-	-	-	内:ニガキ 外:縄文	やや滑	-	にぶい黄緑 10YR7/3	風防木造跡
81	005-05	縄文土器	深鉢	B-910	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:漆線	滑	-	にぶい黄 7.5YR6/4	風防木造跡
82	006-01	縄文土器	深鉢	B-97	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:漆線	滑	-	灰黄緑 10YR4/2	風防木造跡
83	009-01	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	底面	2/12	-	11.0	内:ナデ 外:ニガキ,ナデ	やや滑	-	浅黄緑 10YR8/3	風防木造跡
84	009-06	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	底面	2/12	-	7.2	内:ナデ 外:ナデ	やや滑	-	橙 5YR7/6	風防木造跡
85	009-07	縄文土器	深鉢	B-911	落ち込み	底面	2/12	-	6.4	内:ナデ 外:ナデ	やや滑	-	橙 5YR7/6	風防木造跡

第4表 出土遺物観察表3

NO	発掘 番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構 部位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施地	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
86	009-02	縄文土器	深鉢	B-311	落ち込み	底部 2/12	-	6.8	-	内:ナデ 外:ナデ	中々 部	橙 2.5186/9	風防木造跡	
87	009-04	縄文土器	深鉢	B-311	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	中々 部	橙 2.5186/9	風防木造跡	
88	007-01	縄文土器	深鉢	B-310	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, オサユ	滑	にぶい黄橙 10YR8/3	風防木造跡	
89	009-05	縄文土器	深鉢	B-311	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	中々 部	黄橙 2.5188/6	風防木造跡	
90	007-03	縄文土器	深鉢	B-310	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	中々 部	黄橙 10YR5/1	風防木造跡	
91	009-03	縄文土器	深鉢	B-311	落ち込み	底部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	中々 部	にぶい黄橙 10YR7/2	風防木造跡	
92	012-01	縄文土器	深鉢	B-311	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	滑	にぶい黄 7.5187/4	表面摩滅 風防木造跡	
93	006-08	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, キザミ 外:キザミ	滑	橙 5YR6/6	千載竹管押引	
94	028-04	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:陸帯キザミ, 沈線, 縄文	中々 部	にぶい黄 7.5187/3		
95	021-05	縄文土器	深鉢	B-309	包含層	口縁部	-	-	-	内:沈線, ミガキ 外:ナデ, ミガキ	中々 部	黄橙 10YR5/3		
96	042-07	縄文土器	深鉢	B0C	包含層	口縁部	-	-	-	内:縄文, ミガキ, 沈線, 刺突 外:縄文, ミガキ, 沈線	滑	にぶい黄 7.5185/4	口縁部に小突起	
97	013-04	縄文土器	深鉢	B-311	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線	滑	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部に小突起	
98	026-08	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線 (口縁部)	中々 部	にぶい黄 7.5187/4		
99	003-05	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線, 縄文	滑	にぶい黄 7.5186/4	口縁部に小突起	
100	009-01	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	中々 部	灰白 10YR8/2	突起一部?	
101	020-01	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 刺突	滑	黄橙 10Y4/2		
102	020-04	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 刺突, 縄文	滑	灰黄 7.5184/2	8字浮文	
103	012-06	縄文土器	深鉢	B-319	風防木	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:貼付陸帯キザミ	滑	黄灰 10YR4/1		
104	026-02	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:貼付陸帯キザミ	滑	にぶい黄橙 10YR5/3	表面摩滅	
105	019-03	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:貼付陸帯キザミ, ミガキ	滑	にぶい黄橙 10YR5/3		
106	024-09	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:貼付陸帯キザミ	滑	にぶい黄橙 10YR5/3		
107	014-03	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ココナデ 外:ナデ	滑	黄橙 10YR4/2		
108	009-05	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, 刺突 外:沈線, 縄文	中々 部	にぶい黄 7.5185/3		
109	012-07	縄文土器	深鉢	B-319	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線	滑	にぶい黄 7.5185/3		
110	012-05	縄文土器	深鉢	B-318	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 口縁部縄文	滑	にぶい黄橙 10YR7/4		
111	027-03	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 口縁部縄文	中々 部	にぶい黄 7.5187/4		
112	015-04	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	中々 部	黄橙 7.5185/2		
113	003-04	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, 沈線 外:ミガキ	滑	にぶい黄 7.5185/3		
114	021-07	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ナデ	中々 部	黄橙 7.5188/4		
115	023-08	縄文土器	深鉢	B-314	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ミガキ	中々 部	にぶい黄橙 10YR7/2		
116	021-10	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:漆黒, ナデ	滑	にぶい黄橙 10YR4/2		
117	012-04	縄文土器	深鉢	B-318	包含層	口縁部	-	-	-	内:オサユ, ナデ, ココナデ 外:縄文, ミガキ, ナデ	滑	にぶい黄橙 10YR7/4		
118	016-06	縄文土器	深鉢	B-314	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, ミガキ	中々 部	にぶい黄 5YR6/4		
119	019-07	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 縄文	滑	にぶい黄 7.5185/4		
120	019-04	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	滑	黄橙 10YR4/2		
121	034-01	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ココナデ, ミガキ	滑	黄 10YR6/3		
122	028-02	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ミガキ	中々 部	橙 2.5187/6		
123	013-01	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ミガキ	滑	にぶい黄橙 10YR6/4		

第5表 出土遺物観察表4

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位残存状況	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
124	022-02	縄文土器	深鉢	B-911	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	中や密	-	にぶい黄褐色 10YR7/2	
125	038-04	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ,ナヅ 外:縄文,沈線,ミガキ	中や密	-	灰白 10YR8/1	
126	014-05	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナヅ,縄文,沈線	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	
127	028-01	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:沈線,ナヅ	中や密	-	黄褐色 10YR3/1	
128	036-05	縄文土器	深鉢	B-911	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/2	
129	036-01	縄文土器	深鉢	B-910	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	密	-	黄褐色 10YR6/1	
130	034-04	縄文土器	深鉢	B-314	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:縄文,ナヅ	密	-	褐色 7.5YR4/3	
131	024-06	縄文土器	深鉢	B-915	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線,縄文	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	
132	027-03	縄文土器	鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ,ミガキ 外:ナヅ,沈線,縄文,ミガキ	中や密	-	にぶい黄褐色 10YR7/3	
133	014-01	縄文土器	鉢	B-914	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ,ミガキ 外:縄文,ミガキ,沈線	密	-	黄褐色 10YR3/2	
134	019-01	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:粘質,ナヅ 外:ナヅ,沈線,縄文	密	-	褐色 7.5YR6/6	
135	040-08	縄文土器	深鉢	B-915	包含層	口縁部	-	-	-	内:クズリ 外:ナヅ	中や密	-	褐色 2.5YR6/6	
136	012-03	縄文土器	深鉢	B-99	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:赤線	密	-	褐色 7.5YR4/3	表面摩滅
137	013-02	縄文土器	深鉢	B-910	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:ナヅ	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	
138	016-07	縄文土器	深鉢	B-914	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:縄文	中や密	-	褐色 5YR7/6	
139	018-04	縄文土器	深鉢	B-915	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:赤線,ナヅ	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	
140	033-01	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	黄褐色 7.5YR5/2	
141	027-04	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:沈線	中や密	-	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	
142	023-07	縄文土器	深鉢	B-914	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線,ミガキ,粘質	中や密	-	灰白 10YR8/2	
143	019-01	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:赤線,ナヅ	中や密	-	にぶい黄褐色 7.5YR7/3	
144	029-04	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:沈線,ミガキ,縄文	密	-	にぶい黄褐色 10YR7/3・6/3	表面摩滅
145	020-05	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:縄文	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	
146	014-04	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナヅ,縄文,沈線	密	-	灰黄褐色 10YR5/2	
147	014-08	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナヅ	密	-	黄褐色 7.5YR4/1	
148	019-02	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ,外:ミガキ,粘付 粘着ナヅ,沈線,縄文	密	-	灰黄褐色 10YR4/2	
149	025-01	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,口縁部は縄文	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR5/3	
150	039-06	縄文土器	深鉢	B-914	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナヅ,沈線	中や密	-	褐色 7.5YR7/6 黄褐色 10YR3/0	
151	042-06	縄文土器	深鉢	B-919	包含層	口縁部	-	-	-	内:粘質,ナヅ,キザミ 外:縄文	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	
152	025-03	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:ナヅ,ミガキ	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	
153	024-04	縄文土器	浅鉢	B-915	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	灰黄褐色 10YR5/2	表面赤褐色
154	043-08	縄文土器	深鉢	85C	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,赤線	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	
155	014-07	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/3・6/3	
156	027-04	縄文土器	深鉢	B-912	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	表面摩滅
157	013-05	縄文土器	深鉢	B-911	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,ナヅ	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	
158	018-07	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ,ミガキ 外:口コナヅ,ナヅ,ミガキ	密	-	にぶい黄褐色 10YR3/4・4/3	
159	033-02	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:ナヅ	密	-	にぶい黄褐色 7.5YR6/3	
160	032-01	縄文土器	深鉢	B-311	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナヅ 外:縄文,口縁部は縄文	密	-	にぶい黄褐色 10YR6/2,灰黄褐色 10YR4/2	
161	025-07	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナヅ	密	-	灰黄褐色 10YR5/2	

第6表 出土遺物観察表5

NO	発掘 番号	種類(産地・ 系統)	器種	調査区	遺構 部位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施施	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
162	930-02	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	滑	-	にぶい-黄 7.5180/3	
163	917-01	縄文土器	深鉢	B-314	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや 滑	-	にぶい-黄 5186/4	
164	928-07	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 滑	-	灰緑 7.5185/2	
165	915-01	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 滑	-	にぶい-黄 7.5187/4	
166	915-02	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや 滑	-	黒灰 7.5185/1	
167	941-03	縄文土器	深鉢	B-315	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	滑	-	灰黄緑 10938/3	
168	922-05	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ケズリ	やや 滑	-	灰34/0 灰白 10938/2	
169	928-03	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや 滑	-	にぶい-黄 7.5185/4	
170	914-06	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:縄文	滑	-	灰黄緑 7.5186/4	表面摩滅
171	915-03	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや 滑	-	にぶい-黄緑 10937/2 黒灰33/0	
172	943-06	縄文土器	深鉢	B3C	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	滑	-	黒 7.5187/6	
173	927-06	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデか	やや 滑	-	にぶい-黄 7.5187/4	表面摩滅
174	924-07	縄文土器	深鉢	B-315	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	灰黄緑 10934/2	
175	920-03	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	滑	-	にぶい-黄 7.5185/3	
176	935-06	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:不明	滑	-	黒灰 5187/6	表面摩滅
177	929-08	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, オサエ	滑	-	10937/3	
178	921-02	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや 滑	-	にぶい-黄 5186/4	
179	942-02	縄文土器	深鉢	B3C	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:不明	滑	-	灰緑 7.5185/2・4/2	
180	926-07	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	やや 滑	-	にぶい-黄 7.5187/4	表面摩滅
181	936-06	縄文土器	深鉢	B-311	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	にぶい-黄緑 10937/2	
182	926-06	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや 滑	-	にぶい-黄緑 10936/3	
183	930-04	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	滑	-	灰緑 7.5185/2	
184	929-01	縄文土器	深鉢	B-39	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	にぶい-黄 5186/4	
185	935-03	縄文土器	鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	滑	-	明緑 7.5185/6	表面摩滅
186	930-05	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:漆黒, ナデ	滑	-	にぶい-黄 7.5186/4	
187	936-07	縄文土器	深鉢	B-311	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	にぶい-黄7.5185/3	
188	917-02	縄文土器	深鉢	B-314	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 滑	-	黒灰7.5184/1	
189	930-01	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:漆黒 外:漆黒	滑	-	にぶい-黄7.5186/3	
190	925-02	縄文土器	深鉢	B-316	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	滑	-	にぶい-黄緑 10935/4	
191	927-05	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや 滑	-	黒 7.5187/6	表面摩滅
192	937-03	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	滑	-	灰緑 5186/2	
193	937-02	縄文土器	深鉢	B-312	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	にぶい-黄 5187/4	
194	929-06	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	滑	-	にぶい-黄 7.5187/3	
195	929-07	縄文土器	深鉢	B-310	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	滑	-	にぶい-黄緑 10937/3	
196	924-09	縄文土器	深鉢	B-315	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	滑	-	灰緑 7.5185/2	
197	928-06	縄文土器	深鉢	B-317	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや 滑	-	にぶい-黄緑 2.5187/6	
198	935-05	縄文土器	深鉢	B-313	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや 滑	-	5.5186/6	
199	932-07	縄文土器	深鉢	B-311	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	滑	-	黒灰 2.5185/1・4/1	

第7表 出土遺物観察表6

NO	発掘 番号	種類(産地・ 系統)	器種	調査区	遺構 部位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施期	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
200	040-04	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 密	緑	2.5186/6	
201	040-01	縄文土器	浅鉢	BK	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	2.5151/4	
202	022-03	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 密	緑	10Y8/4	
203	028-05	縄文土器	深鉢	B-917	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 密	緑	10Y8/2	
204	021-03	縄文土器	深鉢	B-Y17	包含層	口縁部	-	-	-	内:クズリ,ナズ 外:クズリ,ナズ	やや 密	緑	縄文10Y8/1 にぶい/4 7.5187/4	
205	026-04	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナズ 外:ナズ,オサカ	やや 密	緑	にぶい/4 7.5186/4	
206	041-05	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナズ,ミガキ 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5186/4	
207	024-02	縄文土器	深鉢	B-915	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	3黄緑 10Y8/2	
208	026-05	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナズ	やや 密	緑	にぶい/4 10Y8/2	
209	032-02	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	7.5184/2	
210	035-01	縄文土器	深鉢	B-X15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナズ 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5187/4	
211	033-06	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナズ,ミガキ 外:縄文	密	緑	にぶい/4 10Y8/2	
212	027-02	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナズ 外:ミガキ	やや 密	緑	縄文 10Y8/1	
213	037-06	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.516/3	表面摩滅
214	037-07	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:ミガキ	密	緑	10Y8/1	表面摩滅
215	017-03	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 密	緑	黄緑 7.5188/4	表面摩滅
216	030-03	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5186/3	
217	029-05	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5186/3・5/3	
218	037-05	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5185/3	
219	035-04	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	口縁部	-	-	-	内:クズリ 外:ミガキ	密	緑	灰黄緑 10Y8/2	
220	033-09	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	体部	-	-	-	内:ナズ 外:縄文	密	緑	にぶい/4 7.5185/4	手載竹管付引
221	034-06	縄文土器	鉢	B-X14	包含層	脚台部	-	-	-	内:ナズ 外:ナズ	密	緑	にぶい/4 10Y8/2・6/3	表面摩滅
222	036-02	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ナズ 外:縄文	やや 密	緑	にぶい/4 5187/4	
223	035-02	縄文土器	深鉢	B-X15	包含層	体部	-	-	-	内:ナズ 外:縄文	密	緑	灰黄緑 10Y8/2	
224	040-06	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈澱	やや 密	緑	灰黄緑 10Y8/2	
225	021-06	弥生土器	弥生土器	B-99	包含層	体部	-	-	-	内:ナズ 外:ナズ,磨板文	やや 密	黄	5Y8/6	
226	035-05	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナズ,沈澱	やや 密	緑	にぶい/4 7.5186/3	
227	017-06	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈澱	やや 密	緑	黄緑 7.5188/3	
228	030-07	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱,ミガキ,縄文	密	緑	にぶい/4 7.5185/2	
229	019-06	縄文土器	深鉢	B-Y17	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱,ミガキ,縄文	密	緑	にぶい/4 5187/4	
230	033-07	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱,沈澱,ミガキ	密	緑	にぶい/4 10Y8/2	
231	018-08	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱,縄文	密	緑	にぶい/4 10Y8/2・6/3	
232	042-03	縄文土器	深鉢	BK	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱,ミガキ	密	緑	にぶい/4 7.5186/3	
233	017-05	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈澱	やや 密	緑	黄緑 10Y8/2	
234	042-04	縄文土器	深鉢	BK	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈澱	密	緑	にぶい/4 7.5187/4	赤影小
235	018-03	縄文土器	深鉢	B-Y14・15	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,縄文,沈澱	密	緑	にぶい/4 10Y8/3	
236	043-02	縄文土器	深鉢	BK	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈澱,縄文	密	緑	7.5185/2	
237	017-07	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,沈澱,縄文	やや 密	緑	にぶい/4 10Y8/2	

第8表 出土遺物観察表7

NO	実測 番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構 部位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施施	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
236	032-08	縄文土器	深鉢	B-111	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 辻縹	赤	短灰 7.5YR4/1		
239	040-05	縄文土器	深鉢	B-114	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, 縄文	赤/中 赤	短 5YR7/6		
240	025-04	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, 辻縹	赤	明志焼 10YR4/3・6/3		
241	038-08	縄文土器	深鉢	B-113	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 辻縹	赤/中 赤	短灰 7.5YR4/1 灰黄焼 10YR6/2		
242	012-08	縄文土器	深鉢	B-119	黒樹木	体部	-	-	-	内:ミガキ, ナゾ 外:縄文, 辻縹	赤	短灰 7.5YR4/1		
243	025-05	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, 辻縹	赤	明志焼 7.5YR5/6		
244	030-06	縄文土器	深鉢	B-110	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 辻縹, 縄文	赤	成焼 7.5YR6/2		
245	037-01	縄文土器	深鉢	B-112	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキか 外:辻縹, 縄文	赤	にぶい焼 7.5YR6/3	表面摩滅	
246	036-04	縄文土器	深鉢	B-110	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, 縄文	赤	にぶい黄橙 10YR7/2		
247	014-02	縄文土器	深鉢	B-112	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, ナゾ, 辻縹	赤	にぶい焼 7.5YR6/2		
248	028-07	縄文土器	深鉢	B-139	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, 縄文	赤/中 赤	浅黄焼 7.5YR8/4	商標	
249	022-04	縄文土器	深鉢	B-911	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, 縄文	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR6/4		
250	029-02	縄文土器	深鉢	B-139	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 辻縹, 縄文	赤	にぶい焼 7.5YR6/4		
251	032-03	縄文土器	深鉢	B-111	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 辻縹, 縄文	赤	灰黄焼 10YR5/2		
252	038-06	縄文土器	深鉢	B-113	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:辻縹, 縄文	赤/中 赤	成 5YR6/8	手織竹管押引	
253	022-07	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤/中 赤	短灰 7.5YR4/1		
254	017-04	縄文土器	深鉢	B-114	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 辻縹	赤	にぶい焼 7.5YR7/4		
255	022-03	縄文土器	深鉢	B-911	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 辻縹, ミガキ	赤	成 5YR6/6		
256	023-04	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, 辻縹	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR6/3		
257	025-06	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, 辻縹, ミガキ	赤	明志焼 5YR5/6		
258	014-01	縄文土器	深鉢	B-112	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾか 外:縄文	赤	にぶい黄橙 10YR6/4	表面摩滅	
259	023-05	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR6/3		
260	015-06	縄文土器	深鉢	B-113	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 辻縹	赤/中 赤	成 5YR7/6		
261	034-05	縄文土器	深鉢	B-114	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文, 辻縹	赤	にぶい黄橙 10YR6/3		
262	020-02	縄文土器	深鉢	B-117	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, 縄文	赤	にぶい焼 10YR5/3		
263	022-06	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR7/4		
264	023-06	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤/中 赤	浅黄焼 7.5YR8/4		
265	033-03	縄文土器	深鉢	B-112	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤	にぶい焼 7.5YR7/4		
266	019-05	縄文土器	深鉢	B-117	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹	赤	にぶい焼 7.5YR7/3		
267	039-04	縄文土器	深鉢	B-113	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:辻縹, ナゾ, ミガキ	赤/中 赤	成 5YR7/6		
268	031-07	縄文土器	深鉢	B-111	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤	にぶい黄橙 10YR5/3		
269	025-07	縄文土器	深鉢	B-916	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤	にぶい焼 7.5YR5/4		
270	015-08	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR7/4		
271	013-08	縄文土器	深鉢	B-111	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	赤	にぶい焼 7.5YR5/4		
272	015-07	縄文土器	深鉢	B-113	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	赤/中 赤	にぶい焼 10YR7/2		
273	016-06	縄文土器	深鉢	B-114	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナゾ, 縄文	赤/中 赤	にぶい焼 7.5YR7/4		
274	027-01	縄文土器	深鉢	B-913	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤/中 赤	成焼 7.5YR5/2		
275	037-08	縄文土器	深鉢	B-112	包含層	体部	-	-	-	内:ナゾ 外:縄文	赤	にぶい焼 7.5YR6/4		

第9表 出土遺物観察表 8



NO	実測 番号	種類(産地 ・系統)	器種	調査区	遺構 部位	部位 残存数	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施施	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
276	030-02	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや 密	-	褐色 10YR5/1	
277	017-08	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内: 外:縄文	やや 密	-	褐色 10YR5/1	
278	036-03	縄文土器	深鉢	B-Y10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや 密	-	褐色 10YR4/1	
279	038-03	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや 密	-	浅黄緑 7.5YR8/2	
280	018-02	縄文土器	深鉢	B-Y14・15	包含層	体部	-	-	-	内:ナツ,ミガキ 外:縄文	密	-	灰褐色 7.5YR4/2	
281	030-09	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	黄灰 2.5Y4/1	
282	031-06	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい黄緑 10YR5/3	
283	023-02	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナツ 外:縄文	やや 密	-	にぶい黄緑 10YR7/3	
284	022-09	縄文土器	鉢	B-W13	包含層	底部 4/12	-	7.0	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや 密	-	褐色 10YR5/8	
285	031-02	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 4/12	-	10.2	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄緑 10YR7/3	
286	020-07	縄文土器	深鉢	B-Y17	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 10YR7/4 灰黄緑	
287	025-08	縄文土器	深鉢	B-Y16	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 10YR6/4	
288	016-02	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	底部 3/12	-	5.6	-	内:ミガキ 外:ナツ,ミガキ 外:ミガキ	やや 密	-	灰黄緑 10YR6/2	
289	032-04	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部 3/12	-	9.1	-	内:クズリ 外:ナツ,ナツ	密	-	褐色 7.5YR4/1	
290	031-04	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 3/12	-	10.0	-	内:ナツ,オサエ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 10YR7/2	
291	025-09	縄文土器	深鉢	B-Y16	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ	密	-	にぶい褐色 7.5YR8/4	底部剥離
292	034-08	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	底部 2/12	-	7.6	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	褐色 7.5YR7/4	
293	018-01	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 4/12	-	10.8	-	内:ナツ 外:オサエ,ミガキ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/4	
294	031-01	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 2/12	-	8.7	-	内:ナツ,オサエ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 10YR6/3	
295	032-06	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 5YR5/4	
296	032-05	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部 2/12	-	8.0	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR5/4	
297	018-06	縄文土器	深鉢	B-Y16	包含層	底部 2/12	-	9.6	-	内:不明 外:ナツ,ミガキ	密	-	にぶい褐色 7.5Y5/3	表面摩滅
298	043-07	縄文土器	深鉢	8YK	包含層	底部 2/12	-	7.6	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナツ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/3	
299	032-05	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	褐色 7.5YR5/2	
300	033-05	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:オサエ,ナツ	密	-	褐色 5YR6/6	
301	029-03	縄文土器	深鉢	B-X9	包含層	底部	-	-	-	内:ナツ 外:オサエ,ナツ	密	-	灰黄緑 10YR5/2	
302	013-06	縄文土器	深鉢	B-Y11	包含層	底部 4/12	-	8.0	-	内:ナツ 外:クズリ,ナツ,オサエ	密	-	灰黄緑 10YR6/2・5/2	
303	038-01	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	底部 1/12	-	7.4	-	内:クズリ 外:ナツ,オサエ	やや 密	-	浅黄緑 7.5YR8/3	
304	034-03	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	底部 3/12	-	8.2	-	内: 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/6	表面摩滅
305	034-07	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	底部 2/12	-	9.8	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/4	
306	042-05	縄文土器	深鉢	8YK	包含層	底部 3/12	-	10.6	-	内:ナツ 外:オサエ,ナツ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/4	
307	010-04	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 3/12	-	5.4	-	内:ナツ 外:ナツ,オサエ,ミガキ	やや 粗	-	にぶい黄緑 10YR7/3	
308	042-01	縄文土器	深鉢	8YK	包含層	底部 2/12	-	9.4	-	内:ナツ,オサエ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR5/4	
309	034-02	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	底部 4/12	-	8.8	-	内: 外:ナツ	密	-	にぶい黄緑 10YR6/3	表面摩滅
310	024-09	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	底部 5/12	-	9.4	-	内:ナツ,ミガキ 外:ナツ,オサエ	密	-	にぶい黄緑 10YR6/4	
311	020-06	縄文土器	深鉢	B-Y17	包含層	底部 2/12	-	7.5	-	内:ナツ 外:ミガキ,オサエ	密	-	にぶい褐色 7.5YR6/6	
312	021-01	縄文土器	深鉢	B-Y17	包含層	底部 5/12	-	10.8	-	内:ミガキ 外:ナツ,ミガキ,オサエ	やや 密	-	浅黄緑 7.5YR8/3 褐色 7.5YR5/1	
313	022-01	縄文土器	深鉢	B-W11	包含層	底部 5/12	-	6.8	-	内:ナツ 外:ナツ,ミガキ	やや 密	-	浅黄緑 7.5YR8/4	

第10表 出土遺物観察表 9

NO	発掘番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構位置	部位残存状況	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
314	040-01	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	11.4	-	内:ナデ 外:ミガキ ナデ,オサユ	心 心	-	浅黄褐色 10YR6/2	
315	040-02	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	9.4	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナデ,オサユ	心 心	-	浅黄褐色 7.5YR6/6	
316	041-04	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	底部 2/12	-	8.0	-	内:ナデ 外:ナデ,オサユ	赤	-	にじみ 7.5YR7/4	
317	040-03	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	7.0	-	内:ナデ 外:ナデ,オサユ	心 心	-	橙 7.5YR7/2	
318	031-03	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 2/12	-	9.8	-	内:ナデ 外:オサユ,ナデ	赤	-	にじみ 5YR6/4	
319	044-01	縄文土器	深鉢	B-98	横瓦	底部 2/12	-	8.8	-	内:ミガキ 外:ナデ,オサユ	心 心	-	にじみ 7.5YR7/4	
320	040-07	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 5/12	-	7.6	-	内:ナデ 外:ナデ,オサユ	心 心	-	浅黄褐色 10YR8/2 横10/2.0	
321	043-03	縄文土器	深鉢	80C	包含層	底部 1/12	-	10.8	-	内:ミガキ 外:ナデ,オサユ	赤	-	にじみ 7.5YR5/3	
322	029-03	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	底部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	心 心	-	橙 2.0YR6/6	
323	021-04	縄文土器	深鉢	B-99	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,オサユ	心 心	-	橙 5YR6/6	
324	016-03	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	底部 1/12	-	16.6	-	内:ナデ 外:ナデ	心 心	-	橙 5YR7/6	
325	050-01	石器	楔形石器	B-X10	落ち込み		2.30	2.80	0.70	石材:サヌカイト			重:5.75g	風割本観察
326	051-01	石器	刮器	B-X11	落ち込み		4.85	3.90	1.45	石材:サヌカイト			重:29.69g	風割本観察
327	049-01	石器	石槌	B-Y11	包含層		1.45	1.50	0.28	石材:サヌカイト			重:16.42g	
328	058-01	石器	石槌	B-X12	包含層		2.10	1.35	0.30	石材:サヌカイト			重:10.64g	
329	056-01	石器	石槌	B-Y16	包含層		2.4	2.0	0.72	石材:サヌカイト			重:12.05g	
330	048-01	石器	石槌	B-Y10	包含層		2.40	1.75	0.45	石材:サヌカイト			重:11.72g	
331	049-04	石器	石槌	B-X12	横瓦		1.20	1.25	0.25	石材:サヌカイト			重:0.32g	
332	049-02	石器	石槌	80C	排土		2.60	1.30	0.30	石材:サヌカイト			重:11.33g	
333	057-01	石器	石槌 未製品	B-Y12	包含層		2.50	1.20	0.40	石材:サヌカイト			重:16.84g	
334	057-02	石器	IF	B-Y17	包含層		3.20	1.38	0.40	石材:サヌカイト			重:11.36g	使用痕有割片
335	056-02	石器	石槌	B-99	包含層		1.80	2.00	0.40	石材:サヌカイト			重:11.20g	
336	057-04	石器	石槌 未製品	B-X12	包含層		2.30	1.80	0.50	石材:サヌカイト			重:11.38g	
337	057-03	石器	石槌	B-X11	包含層		2.50	1.90	0.70	石材:サヌカイト			重:12.65g	
338	056-03	石器	IF	B-99	包含層		1.70	1.12	0.20	石材:サヌカイト			重:10.41g	二次加工痕有割片
339	048-03	石器	石槌	B-X12	包含層		2.30	1.50	0.60	石材:サヌカイト			重:11.25g	
340	050-03	石器	楔形石器	B-98	包含層		2.75	1.70	0.90	石材:サヌカイト			重:13.75g	
341	050-02	石器	楔形石器	B-98	包含層		2.40	2.75	0.80	石材:サヌカイト			重:16.13g	
342	051-02	石器	楔形石器	B-X11	包含層		3.20	2.80	1.00	石材:サヌカイト			重:19.17g	
343	048-02	石器	石槌	B-X11	包含層		2.05	3.75	2.25	石材:サヌカイト			重:16.02g	
344	053-02	石器	石槌	B-X10	包含層		2.65	2.60	1.60	石材:サヌカイト			重:11.93g	
345	049-03	石器	IF	B-Y13	包含層		2.30	4.15	1.20	石材:サヌカイト			重:8.77g	使用痕有割片
346	052-02	石器	刮器	B-917	包含層		3.80	5.40	1.60	石材:サヌカイト			重:23.06g	
347	054-01	石器	刮器	B-Y14	包含層		4.65	7.90	1.20	石材:サヌカイト			重:40.50g	
348	052-01	石器	刮器	B-917	包含層		2.85	7.50	0.90	石材:サヌカイト			重:16.09g	
349	053-01	石器	磨製石斧	B-X11	包含層		3.85	3.30	1.25	石材:			重:127.06g	
350	050-01	石器	磨製石斧	B-Y13	包含層		11.0	7.30	3.30	石材:			重:1371.05g	
351	047-01	石器	敲石	B-913	包含層		9.1	11.2	7.3	石材:			重:1250.9g	

第11表 出土遺物観察表10

\*石器の法量は、長さ、幅、厚さとなる。

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項	
							口径	口径	器高						
352	045-01	石器	取石	B-913	包含層		17.8	12.2	9.4	石材・砂岩		重:2900.0g			
353	046-01	石器	介石	B-913	包含層		14.6	18.8	7.5	石材・砂岩		重:2900.0g			
354	026-02	陶器	皿	B-916	包含層	口縁部	8.8	3.4	2.3	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ,ヘラキリ	滑	良	灰白 10Y8/2	輪:灰白2.5Y8/2 口縁部炭化物付着	
355	041-06	土師器	羽釜	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ヨコナデ,ナデ	滑	-	浅黄緑 7.5Y8/3		
356	043-05	土師器	羽釜	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	滑	-	浅黄緑 10Y8/4		
357	041-07	土師器	鍋	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ヨコナデ 外:ナデ,ヨコナデ	滑	-	黒 7.5Y8/2		
358	039-07	土師器	鍋	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	中々	-	灰黒 7.5Y8/2	スス付着	
359	018-05	弥生土師		B-Y16	包含層	底部	2/12	-	8.6	内:ナデ 外:ナデ	滑	-	12.5L+黄 7.5Y8/4		
360	035-08	山茶碗	碗	B-X17	包含層	口縁部	2/12	17.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	滑	良	灰白 2.6Y7/1		
361	041-08	山茶碗	碗	B区	包含層	底部	1/12	-	5.6	内:ナデ,ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白 2.6Y8/1		
362	027-07	山茶碗	碗	B-917	包含層	底部	5/12	-	6.2	内:ロクロナデ 外:オサエ	滑	良	灰白 10Y8/1		
363	043-04	山茶碗	碗	B区	包含層	底部	4/12	-	7.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,ナデ,ヘラキリ	滑	良	灰白 10Y8/1		
364	041-01	山茶碗	碗	B-Y15	包含層	底部	3/12	-	5.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白 10Y8/1	見込み部分磨耗	
365	041-02	山茶碗	碗	B-Y15	包含層	口縁部	1/12	-	6.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白 10Y7/1		
366	025-10	山茶碗	碗	B-915	包含層	底部	3/12	-	6.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰黄緑 10Y8/2	高台もみ跡あり	
367	027-08	山茶碗	碗	B-917	包含層	底部	5/12	-	6.2	内:ロクロナデ 外:オサエ	滑	良	灰白 8N/0	高台もみ跡あり	
368	013-03	山茶碗	碗	B-Y11	包含層	底部	3/12	-	7.6	内:ロクロナデ,自然輪 外:ロクロナデ,ヨコナデ	滑	良	灰白 2.6Y7/1	内面直ぐ焼き痕跡 見込み部分僅かに 磨耗	
369	026-01	陶器	鉢	B-916	包含層	口縁部	1/12	15.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	滑	良	灰白 8N/0	輪:灰白7.5Y7/2	
370	020-08	陶器	皿	B-Y17	包含層	底部	3/12	-	6.8	内:輪縁,ロクロナデ 外:輪縁,ロクロケズリ	滑	良	浅黄 2.5Y8/3	輪:浅黄2.5Y7/3 側出高台	
371	020-03	陶器	皿	B-916	包含層	口縁部	1/12	12.8	9.2	2.1	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ,高キリ	滑	良	灰白 2.6Y8/1	輪:灰白5Y8/1
372	007-06	瓦器	鉢	1YX T24	SK21001	底部	2/12	-	6.0	内:ミダキ 外:オサエ	滑	良	灰N4/0	走車	
373	007-05	山茶碗	碗	1YX T24	SK21001	底部	6/12	-	7.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白10Y8/1		
374	007-02	山茶碗	碗	1YX T24	SK21001	底部	2/12	-	7.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白10Y8/1		
375	007-01	山茶碗	碗	1YX T24	SK21001	底部	6/12	-	7.8	内:ナデ,ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白10Y8/1		
376	007-04	山茶碗	碗	1YX T24	SK21001	底部	-	10.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ,高台 和縁	滑	良	灰白2.5Y7/1		
377	007-05	山茶碗	碗	1YX T24	SK21001	底部	3/12	-	7.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高キリ	滑	良	灰白10Y8/1	両平	
378	008-01	土師器	鍋	1YX S24	SK21004	体部	-	-	-	内:ナデ,オサエ 外:ナデ,オサエ	滑	-	12.5L+黄 7.5Y8/3+6/3	内外面スス付着	
379	008-02	弥生土師	甕	1YX T24	SK21005	口縁部	1/12	16.2	-	内:ハクナデ 外:古ダマ,ハクナデ	滑	-	12.5L+黄 5Y8/4		
380	008-03	土師器	甕	2YX AD-X25	SK22001	頸部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	滑	-	黄10Y7/6		
381	008-04	土師器	付付集	2YX AD-X25	SK22001	口縁部	3/12	18.8	-	内:ヨコナデ,ナデ 外:ヨコナデ,ハクナデ	滑	-	12.5L+黄 7.5Y8/3+7/4	内外面スス付着	
382	003-04	土師器	杯	3YX	SK23002	口縁部	2/12	10.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	滑	良	灰白5N/0	輪:灰白2.5Y8/2	
383	003-03	瓦器	碗	3YX X3	SD23001	口縁部 1/12 底面6/12	14.1	5.6	5.0	内:ヨコナデ,ミダキ 外:ヨコナデ,オサエ,ミダキ	滑	良	黄10Y8/3/0		
384	003-02	瓦器	碗	3YX X3	SD23001	底部	1/12	6.4	-	内:ミダキ 外:ナデ,オサエ,ミダキ	滑	良	黄10Y8/3/0		
385	003-01	瓦器	碗	3YX X3	SD23001	口縁部	1/12	16.0	-	内:ミダキ,ヨコナデ 外:ヨコナデ,オサエ,ミダキ	滑	良	灰N4/0		
386	002-08	山茶碗	碗	3YX X3	SD23001	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	滑	良	灰白5N/0		
387	002-07	山茶碗	碗	3YX X3	SD23001	口縁部	1/12	15.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	滑	良	灰白5N/0		
388	002-06	山茶碗	碗	3YX X3	SD23001	口縁部	1/12	18.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	中々	良	灰白5N/0	内面自然輪付着	
389	002-05	山皿	皿	3YX X3	SD23001	口縁部	4/12	8.3	3.3	2.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高台和縁	滑	良	灰白5N/0	内外面自然輪付着

第12表 出土遺物観察表11

NO	発掘番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構部位	部位残存状況	流量 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	口径	器高					
306	002-03	ロクロ土師器	皿	3区 X3	S023001	底部 4/12	-	7.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	心や 赤	-	黒灰7.5YR4/1	
391	002-04	ロクロ土師器	皿	3区 X3	S023001	口縁部 2/12	16.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	心や 赤	-	黒2.5YR6/0	
392	002-02	土師器	皿	3区 X3	S023001	口縁部 2/12	13.4	-	2.9	内:ナデ, ヨコナデ 外:ヘラケズリ	心や 赤	-	灰黒7.5YR4/2	
393	002-01	土師器	鍋	3区 X3	S023001	口縁部 3/12	21.9	-	-	内:ナデ, ハケナデ 外:ヨコナデ, ハケナデ	心や 赤	-	浅黄緑7.5YR3/2, 灰黒7.5YR4/2	
394	003-08	瓦器	椀	3区 X3	F142	小片	-	-	-	内:ミダキ	赤	黒	黒灰R3/0	
395	003-05	山系椀	椀	3区 X3	F142	底部 2/12	-	8.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ, 高台 和登飯	心や 赤	黒	灰白S8/0	
398	003-07	ロクロ土師器	小皿	3区 X3	F142	口縁部1/12	8.4	5.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	心や 赤	-	にぶい-黄緑 7.5YR6/4	
397	003-06	土師器	皿	3区 X3	F142	口縁部 4/12	9.8	-	1.7	内:ナデ, ヨコナデ 外:ナデ, ヨコナデ	心や 赤	-	浅黄緑7.5YR3/3	
398	006-01	山系椀	椀	4区 T4	S024001	底部 6/12	-	8.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	黒	灰白7.5Y7/1	内側
399	007-01	鉄洋		4区 T4	S024001		7.5	6.7	3.0					内側
400	006-05	土師器	皿	4区 T4	S024001	口縁部 2/12	7.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	-	にぶい-黒 7.5YR6/4	外側
401	006-04	山系	皿	4区 T4	S024001	口縁部 3/12	9.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白S7/1	外側
402	006-07	瓦器	椀	4区 X	S024001	底部 5/12	-	6.0	-	内:ミダキ 外:ナデ	赤	黒	黒灰R3/0	
403	006-02	山系椀	椀	4区 T3	S024001	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白S7/1	下側
404	006-03	山系椀	椀	4区 T4	S024001	口縁部 2/12	15.9	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白S7/1	外側
405	006-06	土師器	鍋	4区 T4	S024001	口縁部 1/12	18.2	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	赤	-	にぶい-黄緑 10YR7/3	外側 又ス付着
406	004-03	山系椀	椀	4区 X	S024001	口縁部 1/12	16.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白2.5Y7/1	
407	004-02	山系椀	椀	4区 X	S024001	口縁部 1/12	14.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白2.5Y7/1	
408	004-05	山系	皿	4区 X	S024001	底部 3/12	-	4.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰黄2.5Y7/2	
409	004-04	山系椀	椀	4区 X	S024001	底部 4/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, ナデ, 高台和 登飯	赤	黒	灰白2.5Y7/1	
410	004-01	山系椀	椀	4区 X	S024001	底部 6/12	-	8.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	黒	灰白S7/1	見込み部分磨耗, 内面自然焼付
411	005-03	土師器	皿	4区 X	S024001	口縁部 2/12	7.0	-	1.7	内:ナデ 外:ナデ	赤	-	黒0Y6/0	前面磨減
412	004-06	ロクロ土師器	皿	4区 X	S024001	口縁部 1/12	8.4	4.9	4.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	にぶい-黒 7.5YR6/3	
413	004-07	ロクロ土師器	皿	4区 X	S024001	底部 3/12	-	3.8	-	内:ナデ, ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	にぶい-黒 7.5YR7/4	
414	005-02	ロクロ土師器	皿	4区 X	S024001	口縁部 2/12	9.6	6.0	1.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	黒7.5YR6/0	
415	005-01	ロクロ土師器	皿	4区 X	S024001	口縁部 4/12	9.4	5.2	1.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	黒7.5YR6/0	
416	005-04	ロクロ土師器	皿	4区 T3	S024001	口縁部 3/12	8.8	5.6	1.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	にぶい-黒 7.5YR6/4	下側
417	005-05	ロクロ土師器	皿	4区 T3	S024001	底部 4/12	-	5.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	-	にぶい-黄緑 10YR7/3	下側
418	008-05	民権陶器	皿	5区 X	S025001	底部 3/12	-	4.0	-	内:ロクロナデ 外:削り出し高台	赤	黒	灰白2.5YR7/1	
419	009-03	土師器	鍋	2区 T24	包含層	小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	心や 赤	-	にぶい-黒 7.5YR6/3	黒色粘土
420	009-04	磁器		2区 A25	焼築	小片	-	-	-	内: 赤	赤	黒	灰白S8/0	輪: 灰白S8/0 型 破砕台
421	009-05	瓦器	椀	2区 R25	包含層	小片	-	-	-	内:ミダキ, ナデ 外:ナデ, オオエ	赤	黒	黒灰R3/0	
422	009-02	酒器	杯	2区 X	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, ロクロケズリ	赤	黒	灰白S8/0	RFH
423	009-06	酒器	杯	2区 W25	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰S6/0	RFH
424	009-01	陶器	壺	2区 X	表土等	底部 3/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰白10R7/1	輪: 赤赤黒R3/3
425	009-09	酒器	杯	3区 L3	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤	黒	灰S6/0	RFH
426	009-07	山系椀	椀	3区 X	表土等	底部 7/12	-	7.2	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	黒	灰白S8/0	見込部分磨耗, 内 面自然焼付
427	009-08	山系椀	椀	3区 X	表土等	底部 3/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ, 赤キリ	赤	黒	灰白S8/0	見込部分磨耗, 内 面自然焼付

第13表 出土遺物観察表12

## IV 自然科学分析

### 1 岡遺跡の放射性炭素年代測定

#### (1) はじめに

岡遺跡(津市白山町二本木所在)は、雲出川の支流大村川左岸の段丘上に立地する。発掘調査の結果、縄文時代中期末から後晩期と思われる土器や石器、サヌカイト片などの遺物が出土している。

本分析調査では、出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施し、遺構等の年代に関する資料を作成する。

#### (2) 試料

分析用試料は、第14表に示す炭化物10点である。なお、試料がスギなど長命な樹種であった場合、樹心部分では伐採年代よりも年代値が極端に古くなる可能性がある(古木効果)。このため、考察時の参考資料として、年代測定用の試料調整の際、実体顕微鏡下においてわかる範囲で、樹種同定を実施している(第14表参照)。

#### (3) 分析方法

試料は、土壌毎取り上げられているため、写真撮影後、周りの土壌を削り落として炭化物のみを取り出し、50mg程度に調整する(ただし、No.10を除く)。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。一部の試料は化学的に脆弱で、通常の処理では炭素の損耗が大きく、測定不能になる可能性があった。そのため、アルカ

リの濃度を薄くして対応した。No.10は試料が約3mgと少なく、かつ代替試料が存在しなかったため、AAA処理を行わなかった。試料ごとの分析方法に関しては、結果表にまとめて記す。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした $^{14}\text{C}$ -AMS専用装置(NEC社製)を用いて、 $^{14}\text{C}$ の計数、 $^{14}\text{C}$ 濃度( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ )、 $^{13}\text{C}$ 濃度( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4 (Bronk, 2009)、較正曲線はIntCal20 (Reimer et al., 2020)である。

#### (4) 結果・考察

結果を第15表、第28図に示す。No.3、No.8、No.9の3点はアルカリの濃度を薄くし、No.10はAAA処理を行わなかった。

その結果、測定に必要なグラファイト量が得られた。同位体補正を行った値は、No.1(SK10004)が $3535 \pm 25\text{BP}$ 、No.2(SK10004)が $3675 \pm 25\text{BP}$ 、No.3(SK10005)が $2250 \pm 25\text{BP}$ 、No.4(SK10005)が $3880 \pm 25\text{BP}$ 、No.5(33層)が $3185 \pm 25\text{BP}$ 、No.6(18層)が $3640 \pm 25\text{BP}$ 、No.7(17層)が $3325 \pm 25\text{BP}$ 、No.8(風倒木B)が $3265 \pm 25\text{BP}$ 、No.9(風倒木A)が $3200$

No.	取上 No.	地区	遺構名等	備考
1	①	B-714.15	SK10004	炭化材(散乱材)
2	①	B-714.15	SK10004	炭化材(アカガシ産炭)
3	⑤	B-710	SK10005	炭化材(散乱材)
4	⑤	B-710	SK10005	炭化材(アカガシ産炭)
5	⑤	B-713	土壌化層(33層)	炭化材(ケヤキ)
6	⑤	B-714.15	ベース(18層)	炭化材(ケヤキ)
7	⑤	B-713	17層	炭化材(ケヤキ)
8	⑤	B-713	風倒木B	炭化材(ケヤキ)
9	⑤	B-713	風倒木A	炭化材(ケヤキ)
10	⑤	B-712	19層	不明(産炭)

第14表 分析試料一覧結果 \*第4図参照

±25BP, No. 10 (19層) が3600±25BPである。暦年較正は、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、その後訂正された半減期(°Cの半減期5730±40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、IntCal20 (Reimer et al., 2020)を用いる。2σの値は、No. 1 (SK10004) が3895~3717calBP、No. 2 (SK10004) が4090~3910calBP、No. 3 (SK10005) が2339~2156calBP、No. 4 (SK10005)

が4413~4188calBP、No. 5 (33層) が3451~3369calBP、No. 6 (18層) が4082~3880calBP、No. 7 (17層) が3626~3463calBP、No. 8 (風倒木B) が3561~3404calBP、No. 9 (風倒木A) が3456~3374calBP、No. 10 (19層) が3977~3837calBPである。

暦年代 (calBP) みると、3500年前後 (No. 5 (33層)、No. 7 (17層)、No. 8 (風倒木B)、No. 9 (風倒木A))と4000年前後 (No. 1 (SK10004)、No. 2 (SK10004)、No. 4 (SK10005)、No. 6 (18層)、No. 10 (19層))に値が収束しているようにみえる。No. 3 (SK10005)

No.	性状	方法	修正年代 (暦年較正用) BP	δ <sup>14</sup> C (‰)	暦年較正年代				Code No.		
					年代値					確率%	
					1σ	2σ	1σ	2σ			
1	炭化材 散孔材	AAA (10)	3535±25 (3533±25)	-24.55 ±0.60	σ	cal BC 1921 - cal BC 1909	3870 - 3858	calBP	7.3	YU- 15075	pa1- 13901
						cal BC 1904 - cal BC 1875	3853 - 3824	calBP	24.5		
					2σ	cal BC 1844 - cal BC 1820	3793 - 3769	calBP	20.8		
						cal BC 1798 - cal BC 1778	3747 - 3727	calBP	15.8		
2	炭化材 アカガシ 重炭	AAA (10)	3675±25 (3675±24)	-24.48 ±0.55	σ	cal BC 1946 - cal BC 1864	3895 - 3813	calBP	44.9	YU- 15076	pa1- 13902
						cal BC 1855 - cal BC 1768	3804 - 3717	calBP	50.6		
					2σ	cal BC 2132 - cal BC 2098	4081 - 4035	calBP	42.0		
						cal BC 2051 - cal BC 1925	3990 - 3974	calBP	21.0		
3	炭化材 散孔材	AaA (0.10)	2250±25 (2249±24)	-31.55 ±0.57	σ	cal BC 1992 - cal BC 1984	3941 - 3933	calBP	5.3	YU- 15077	pa1- 13903
						cal BC 2141 - cal BC 1961	4090 - 3910	calBP	95.4		
					2σ	cal BC 383 - cal BC 355	2332 - 2304	calBP	25.4		
						cal BC 281 - cal BC 231	2230 - 2189	calBP	42.9		
4	炭化材 アカガシ 重炭	AAA (10)	3880±25 (3881±25)	-29.91 ±0.58	σ	cal BC 390 - cal BC 349	2339 - 2298	calBP	30.9	YU- 15078	pa1- 13904
						cal BC 311 - cal BC 207	2269 - 2156	calBP	64.5		
					2σ	cal BC 2454 - cal BC 2418	4403 - 4367	calBP	21.0		
						cal BC 2409 - cal BC 2371	4358 - 4320	calBP	22.2		
5	炭化材 ケヤキ	AAA (10)	3185±25 (3187±25)	-33.55 ±0.66	σ	cal BC 2359 - cal BC 2338	4308 - 4287	calBP	11.9	YU- 15079	pa1- 13905
						cal BC 2324 - cal BC 2301	4273 - 4250	calBP	13.1		
					2σ	cal BC 2464 - cal BC 2286	4413 - 4235	calBP	94.4		
						cal BC 2246 - cal BC 2239	4195 - 4188	calBP	1.0		
6	炭化材 ケヤキ	AAA (10)	3640±25 (3641±25)	-29.71 ±0.65	σ	cal BC 1497 - cal BC 1473	3446 - 3422	calBP	31.7	YU- 15080	pa1- 13906
						cal BC 1481 - cal BC 1432	3410 - 3381	calBP	36.6		
					2σ	cal BC 1502 - cal BC 1420	3451 - 3369	calBP	95.4		
						cal BC 2035 - cal BC 1953	3984 - 3902	calBP	68.3		
7	炭化材 ケヤキ	AAA (10)	3325±25 (3323±26)	-30.61 ±0.68	σ	cal BC 2133 - cal BC 2085	4082 - 4034	calBP	16.5	YU- 15081	pa1- 13907
						cal BC 2051 - cal BC 1931	4000 - 3880	calBP	79.0		
					2σ	cal BC 1617 - cal BC 1599	3566 - 3548	calBP	18.0		
						cal BC 1592 - cal BC 1542	3541 - 3491	calBP	18.0		
8	炭化材 ケヤキ	AaA (0.10)	3265±25 (3264±26)	-31.94 ±0.55	σ	cal BC 1677 - cal BC 1654	3636 - 3603	calBP	3.9	YU- 15082	pa1- 13908
						cal BC 1641 - cal BC 1514	3590 - 3463	calBP	91.6		
					2σ	cal BC 1601 - cal BC 1585	3550 - 3534	calBP	8.9		
						cal BC 1544 - cal BC 1498	3493 - 3447	calBP	59.4		
9	炭化材 ケヤキ	AaA (0.050)	3200±25 (3202±25)	-30.46 ±0.50	σ	cal BC 1612 - cal BC 1572	3561 - 3521	calBP	17.9	YU- 15083	pa1- 13909
						cal BC 1567 - cal BC 1495	3518 - 3444	calBP	69.3		
					2σ	cal BC 1478 - cal BC 1455	3427 - 3404	calBP	8.2		
						cal BC 1499 - cal BC 1447	3448 - 3396	calBP	68.3		
10	炭化材? 微炭	無処理	3600±25 (3598±26)	-26.93 ±0.64	σ	cal BC 1507 - cal BC 1425	3456 - 3374	calBP	95.4	YU- 15084	pa1- 13910
						cal BC 2016 - cal BC 1999	3965 - 3948	calBP	13.4		
					2σ	cal BC 1978 - cal BC 1920	3927 - 3869	calBP	49.1		
						cal BC 1911 - cal BC 1902	3866 - 3851	calBP	5.7		
						cal BC 2028 - cal BC 1888	3977 - 3837	calBP	95.4		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理、AaAはアルカリの濃度を下げたことを示す。
- 5) 暦年の計算には、1σは1使用
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正データセットは、IntCal20を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 9) 統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である。

第15表 放射性炭素年代測定結果

のみ2300年前後と極端に新しい年代を示す。試料の性状と分析値との関係を見ると、同一樹種（アカガシ亜属、ケヤキ）の年代値が揃っているようにみえる。今回は全体的に炭化物の量が少なく、同一個体

から電子顕微鏡観察用試料と年代測定用試料を取り分けることは難しかったが、今後は樹種と年代値の関係をみていくことが必要と思われる。

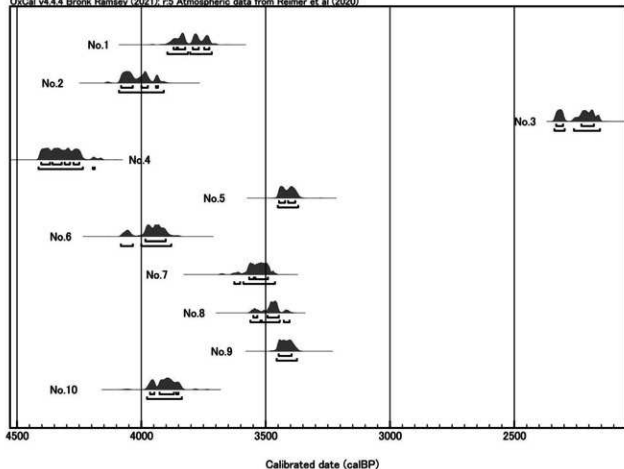
(パリノ・サーヴェイ株式会社)

#### 引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.  
 Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen

U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62, 1-33.  
 Stuiver M., & Polach AM., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363

0xCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r5 Atmospheric data from Reimer et al (2020)



第28図 暦年校正結果



No. 1



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5



No. 6



No. 7



No. 8



No. 9



No. 10



第29圖 分析試料



## V まとめ

### 1 遺構

第1・2次調査によって、大村川周辺における人間活動の状況の一端を明らかにすることができた。

第1次調査では建物跡などの集落の痕跡は確認できなかったものの、焼土痕跡や土器投棄をしたとみられる土坑が見つかった。このことから、縄文時代の岡遺跡周辺で人々が何らかの活動を行っていたことを示唆するものである。また、谷状の落ち込みに堆積した層には多量の縄文土器が含まれていたこと、第2次調査の大村川から少し離れた段丘上では縄文土器がほぼ出土しなかったことを合わせて考えると、縄文時代の人々の生活の中心地は、調査地よりもさらに上流域であったと判断できよう。

第2次調査では、大村川が形成した段丘上の状況を確認することができた。3区では平安時代末ごろの遺物を含む層に覆われた柱穴を多量に検出した。このことから、段丘上では遅くとも平安時代末以降には人々が活動を始めていたと判断できる。この時期の段丘上では柱穴が多数見つかったことからみて、中世には複数時期にわたって人々が大村川沿いで活動していたことが窺える。柱穴に関しては建物として並ぶものはないものの、柱列として把握できるものがある。いずれも柱の規模は径0.3m程度と比較的小規模ではあるが、調査区外に広がる可能性があり、掘立柱建物となる可能性をここでは指摘しておきたい。

また、初瀬街道に近接する4区では柱列と井戸が見つかった。柱列の時期は出土遺物が少量のため不明だが、井戸については平安時代末から鎌倉時代初頭にかけてのものである。井戸からの出土品には、三重県内では伊賀周辺で確認される瓦器碗が出土している。調査地が伊賀や畿内に比較的近いことや、畿内と伊勢地域を結ぶ街道沿いであったことから、瓦器碗がここまで流通していたことが考えられる。これにより、中世における初瀬街道沿いの生活痕跡についても確認することができ、初瀬街道が最盛期を迎える近世以前の二本木宿周辺の様相について、その一端を知ることができた。

### 2 遺物

第1次調査の遺構や包含層から多量に出土した縄文土器はいずれも縄文時代中期から後期にかけてのものである。いずれも小片であることから、破損したなどの理由で投棄したものであろうか。また、谷状の落ち込みに堆積した層から出土した縄文土器や石器についても同様であろう。このことから、調査地では縄文時代に人々が集住していたと考えるよりも、投棄場所あるいは活動拠点の縁辺部とみるほうが良いだろう。

第2次調査においては、縄文時代から弥生時代にかけての遺物はほぼ出土しない状況であった。段丘上で活動していた平安時代末以降の人々の土地開発によって削平された可能性もあるが、今回の調査でそれを判断することはできなかった。

段丘上からは、平安時代末から鎌倉時代初頭ごろの土器が出土している。なかでも特筆されるのは、前述した井戸S E24001出土の瓦器碗である。本来、この時期の瓦器は畿内から伊賀地域を中心に分布するものであり、伊勢地域での出土は多くない。4区は特に初瀬街道に隣接していることから見て、畿内地域から流通してきたものが井戸に投棄あるいは埋納されたと考えても良いかもしれない。いずれにせよ、中世期の初瀬街道沿いの人々の生活や往来があったことを示すものであろう<sup>10</sup>。

### 3 結語

2回にわたる調査の結果、大村川沿いに縄文時代の遺物が集中していること、段丘上には平安時代末以降の遺構や遺物が広がっていることが明らかとなった。また、いずれの調査でも風倒木痕跡を複数カ所で検出したことからみて、調査地は人々の定住以前には樹木の生えた浅い谷状の地形が広がっていたものと考えられる。このことは、当地が現在のような田園風景となる前の大村川周辺の様相についてその一端ではあるものの、明らかにすることができたといえよう。

(土橋)

## 注

(1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。

- 縄文土器・石器：三重県埋蔵文化財センター『新徳寺遺跡』1997年／小瀬学「東海地方における福田K2式期土器群の様相」『立命館大学考古学論集Ⅲ-1』立命館大学考古学論集刊行委員会 2003年／小瀬学「高瀬印遺跡 2 縄文時代中・後期土器」『研究紀要 第11号』2002年 三重県埋蔵文化財センター／山崎真治「緑帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要18』東京大学考古学研究室 2003年／加納実「堀之内式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／石田由紀子「中津式・福田KⅡ式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／千葉豊「緑帯文土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「四線文系土器(宮滝式土器・元住吉山Ⅱ式土器)」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／富井眞「北白川C式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／藤原誠・高橋健太郎「中富式・神明式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年
- 弥生土器・古式土器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000年／愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990年
- 古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001年

- 須志器：奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』2017年
- 灰輪陶器：橋崎彰一「築設期の編年について」『愛知県古窯群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会、1983年
- 中世土器：伊藤裕徳「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年／伊藤裕徳「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋貫Ⅱ』三重県埋蔵文化財センター、2000年
- 山茶梅：藤澤良佑「山茶梅研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年
- 古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良佑「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10報、2002年／「施輪陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年／「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年
- 常滑：中野精久「緑美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年
- 貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真福社／禮伸一郎「中世後期の貿易 陶磁器」(同上)
- Ⅴ：山崎信二「中世Ⅴの研究」奈良国立文化財研究所、2000年／「近世Ⅴの研究」奈良文化財研究所、2008年



第1次調査調査前状況(西から)



第1次調査調査前状況(東から)

写真図版 2



第1次調査調査区全景(西から)



第1次調査調査区全景(北東から)



第1次調査下層確認状況(南から)



第1次調査下層確認状況(南から)

写真図版 4



第1次調査SK10001 (南から)



第1次調査SF10002 (南から)





第1次調査SK10003 (北から)



第1次調査SK10004検出状況 (南から)

写真図版 6

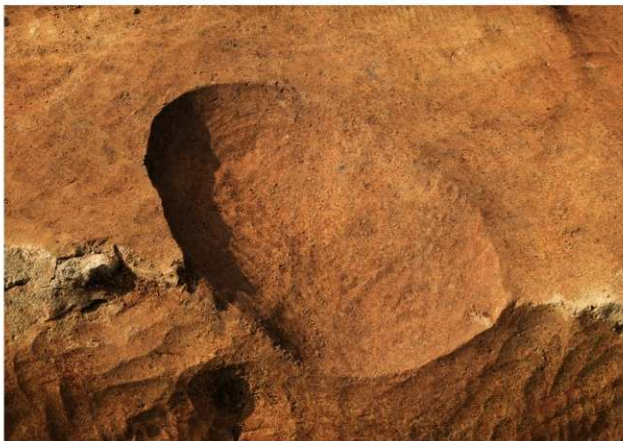


第1次調査SK10004調査状況(南東から)



第1次調査SK10005検出状況(南から)





第1次調査SK10005完掘状況(南から)



第2次調査1区調査前状況(南から)

写真図版 8



第2次調査2区調査前状況(南から)



第2次調査3区調査前状況(南から)



第2次調査1区調査区全景(南東から)



第2次調査2区調査区全景(北から)



第2次調査3区調査区全景(北から)



第2次調査4区調査区全景(北から)



第2次調査4区調査区全景(南から)





第2次調査5区調査区全景(南から)



第2次調査1区SA21006(北から)



第2次調査3区SD23001調査状況(東から)



第2次調査3区調査区南掘削状況(南から)



第2次調査3区SD23001遺物出土状況(南から)



第2次調査4区SE24001(西から)



第2次調査5区SK25001(北から)



1



2



11



4



5



12



13



22



25



29



36



39



40



43



44





45



52



55



56



59



61



62



63



64



65



67



66



68



69



70



72



73



74



79



80



82



83



86



94



93外



93内



98



96外



96内



99



100



101



102



107



109



111



113



114



115



116



117



120



121



123



125



126



128



129



130



131



132



136



138



139



134外



134内



140



141



143



144



145



146



147



148



149



155



160



162



165



172



174



175



150



153



154



163



178



179



180



181



182



185



187



188



189

出土遺物 6



190



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



215



217



219



220



225



227



230



232



233



235



236



237



239



240



241



245



246



247



251



252



264



265



266



274



275



281



282



283



284



285



290



302



305



310



312



313





316



319



326



327



328



329



330



332



336



334表



334裏



339



341



342



343



344



345



346



347



348



354



355



360



363



369



370



371



349



350



353



375



378



379



381



382



383



388



389



393



397



399



404



405



415



415底



424

## 報告書抄録

ふりがな	おがひせき(だいらい・にじ)ほくつちようきほうこく							
書名	岡遺跡(第1・2次)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	418							
編著者名	土橋明梨紗・萩原義彦・原田恵理子							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Ⅱ0596-52-1732							
発行年月日	2024年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
岡遺跡	三重県津市 白山町二本木	24201	i 33	34度 39分 39秒	136度 21分 40秒	2020/4/24 ～ 2020/8/11 2021/6/11 ～ 2021/11/26	815㎡ 1515㎡	道路改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
岡遺跡	集落跡	縄文時代・ 鎌倉時代～ 近世	柱列・土坑・溝・ 井戸	縄文土器・石器・土師器・ 須恵器・陶器・鉄滓				
要旨	遺跡は雲出川支流である大村川左岸の段丘上に広がっている。道路改良事業に先立ち発掘調査を行った。遺構については、縄文時代・平安時代～室町時代の遺構(柱列、土坑、溝、井戸)や谷状の落ち込みを確認し、大村川周辺の旧地形を把握することができた。遺物は、縄文時代中期から後期の縄文土器や石器、中世以降の土師器鍋・皿、陶器、鉄滓が出土した。鉄滓の出土は、周辺での鍛冶活動が想定できる。							

三重県埋蔵文化財調査報告418

### 岡遺跡(第1・2次)発掘調査報告 ～津市白山町二本木～

2024(令和6)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター  
印刷 共立印刷株式会社





